

榎田遺跡

(甲府市千塚5丁目3183-2 他地点)

—都市計画道路高畑町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査報告書—

2018

山梨県中北建設事務所
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

榎田遺跡

(甲府市千塚5丁目3183-2他地点)

—都市計画道路高畑町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査報告書—

2018

山梨県中北建設事務所
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

例 言

1. 本報告書は、山梨県甲府市千塚5丁目3183-2他に所在する榎田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は都市計画道路高畑町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会が実施し、昭和測量株式会社がこれを支援した。
3. 本調査は、甲府市教育委員会生涯学習文化課の平塚洋一が担当し、昭和測量株式会社の小谷亮二・萩野谷主税が現地調査及び整理事業の支援を行った。
4. 本調査に係る経費等は、事業主である山梨県中北建設事務所がすべて負担した。
5. 発掘調査は平成28年6月17日～11月30日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成29年8月1日～平成30年1月29日まで実施した。
6. 発掘調査および本報告書の執筆は、第1章を平塚洋一（甲府市教育委員会）が担当し、第2章から第4章及び第6章と全体の編集を萩野谷主税（昭和測量株式会社）が担当した。
現場調査および整理事業にあたっては新津健（昭和測量株式会社）の助言を受けた。
遺物の実測は、垣内律子、齊藤里美、三木一恵、渡辺麗子、トレースは今福ともみ、小澤美幸、牧野麻里が行った。遺物写真は山路恭之介が撮影を行った。
7. 哺乳類遺体（人骨・馬の歯）鑑定は大妻女子大学博物館の橋崎修一郎氏、鉄製品の保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に依頼した。なお、古墳時代の出土土器については山梨県立考古博物館の小林健二氏のご厚意により実見し、御教示をいただいた。
8. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々に御指導と御協力を賜った。ここに記して厚く感謝申し上げる（順不同、敬称略）。
小林健二 橋崎修一郎 畑大介
9. 調査体制
調査員：小谷亮二・萩野谷主税（昭和測量株式会社）
発掘調査参加者：浅川晃一 長田秋文 小澤美幸 北野礼子 齊藤里美 三木一恵 土屋常子 内藤敏夫 中澤保 横内光夫
整理事業担当者：萩野谷主税
整理事業参加者：今福ともみ 小澤美幸 垣内律子 齊藤里美 牧野麻里 三木一恵 渡辺麗子
10. 本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会にて保管している。

凡 例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。写真図版の縮尺は任意である。
2. 遺構断面図で表示した標高は海拔高を示し、単位はメートル (m) である。
3. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 2010 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
4. 本報告書で使用した地図は、国土地理院発行の「甲府」（1:25000）である。
5. 遺跡における X、Y 座標は世界測地系座標を使用している。
6. 遺構番号は調査区毎に振り直している。遺物実測図中に使用したトーンは煤の付着範囲を示す。

本文目次

例言・凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の立地	1
第2節 歴史的環境	1
第3節 榎田遺跡の過去の調査	3
第3章 調査の方法	5
第4章 調査の成果	
第1節 基本層序	5
第2節 遺構と遺物	6
第5章 自然科学分析	
第1節 古人骨鑑定	60
第2節 獣骨鑑定	62
第6章 まとめ	63
写真図版	
報告書抄録	

表目次

表1 溝状遺構計測表 (SD)	40
表2 土坑計測表 (SK・SX)	40
表3 ピット計測表 (SP)	41
表4 土器観察表	52
表5 金属製品観察表	59

挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図	2
第2図 調査地点図 (「山梨県史」より)	3
第3図 調査地点図 (「甲府市内遺跡Ⅲ」より)	3
第4図 調査地点図	4
第5図 基本土層図	5
第6図 ①区遺構分布図	11
第7図 ②区遺構分布図	13
第8図 ③区遺構分布図	14
第9図 ④区遺構分布図	15
第10図 ⑤区遺構分布図	16
第11図 ①-1区SD1～5・SK6	17
第12図 ①-1区SK1～5・7・SP1～5	18
第13図 ①-3区SD1・SP1～8	19

第14図	②-1区SD1～8・SK1・SP7・8	20
第15図	②-1区SK1～4・SP1～6・9～13・20～22	21
第16図	②-1区SP14～19・23	22
第17図	②-2区SD1～10	23
第18図	②-3区SD1～10・SP1	24
第19図	③-1区SD1・③-2区SD1～3・SK1・2・SP1	25
第20図	④-1区SK1・2・6・10	26
第21図	④-1区SK3・4・7	27
第22図	④-1区SK5・8・9	28
第23図	④-1区SK12・14・15・18	29
第24図	④-1区SK15・16・SP1・2	30
第25図	④-2区SK1～4・13	31
第26図	④-2区SK5～9・SX1	32
第27図	④-2区SK10・11・SP1～10	33
第28図	⑤-1区SK1～3・12～14・17・SP3	34
第29図	⑤-1区SK4～8	35
第30図	⑤-1区SK9・10・15・16・SP1・4	36
第31図	⑤-2区SK1～5・9・10・13・SP10	37
第32図	⑤-2区SK6～8・11・12・14～16	38
第33図	⑤-2区SP1～9・11・13～17	39
第34図	遺物実測図(1)	43
第35図	遺物実測図(2)	44
第36図	遺物実測図(3)	45
第37図	遺物実測図(4)	46
第38図	遺物実測図(5)	47
第39図	遺物実測図(6)	48
第40図	遺物実測図(7)	49
第41図	遺物実測図(8)	50
第42図	遺物実測図(9)	51

写真図版目次

図版1

- ①区モザイク写真
- ②区モザイク写真
- ③区モザイク写真
- ④区モザイク写真
- ⑤区モザイク写真
- ①-1区SD2完掘状況(北から)
- ①-1区SD1完掘状況(北から)
- ①-1区SD4・3完掘状況(北から)
- ①-1区SD5完掘状況(北から)

- ①-1区SK1完掘状況(南から)
- ①-1区SK2完掘状況(北から)

図版2

- ①-1区SK3完掘状況(東から)
- ①-1区SK4完掘状況(南から)
- ①-1区SK5完掘状況(南から)
- ①-1区SK6完掘状況(西から)
- ①-1区SK7完掘状況(西から)
- ①-1区SP1完掘状況(西から)
- ①-1区SP2完掘状況(南から)

19. ①-1区SP3完掘状況(西から)
20. ①-1区SP4完掘状況(南から)
21. ①-1区SP5完掘状況(西から)
22. ①-2区完掘状況(東から)
23. ①-3区SD1完掘状況(北から)
24. ①-3区SD1セクション(西から)
25. ①-3区SP1完掘状況(東から)
26. ①-3区SP3完掘状況(東から)

図版3

27. ①-3区SP4～8完掘状況(西から)
28. ②-1区SD1～4完掘状況(南から)
29. ②-1区SD5完掘状況(東から)
30. ②-1区SD6完掘状況(南から)
31. ②-1区SD8完掘状況(南から)
32. ②-1区SK1完掘状況(東から)
33. ②-1区SK2完掘状況(東から)
34. ②-1区SK3完掘状況(東から)
35. ②-1区SK4完掘状況(南から)
36. ②-1区SP1完掘状況(南から)
37. ②-1区SP2完掘状況(南から)
38. ②-1区SP3完掘状況(南から)
39. ②-1区SP5完掘状況(南から)
40. ②-1区SP6完掘状況(南から)
41. ②-1区SP7・8完掘状況(西から)

図版4

42. ②-1区SP10・9完掘状況(南から)
43. ②-1区SP11完掘状況(南から)
44. ②-1区SP12完掘状況(南から)
45. ②-1区SP13完掘状況(南から)
46. ②-1区SP14完掘状況(南から)
47. ②-1区SP15完掘状況(南から)
48. ②-1区SP16完掘状況(南から)
49. ②-1区SP17完掘状況(南から)
50. ②-1区SP18・SD8完掘状況(南から)
51. ②-1区SP19完掘状況(南から)
52. ②-1区SP20完掘状況(南から)
53. ②-1区SP21・22完掘状況(東から)
54. ②-1区SP23完掘状況(南から)
55. ②-1区遺物出土状況No.19(東から)
56. ②-2区SD2完掘状況(西から)

図版5

57. ②-2区SD3完掘状況(東から)
58. ②-2区SD7～5完掘状況(東から)
59. ②-3区SD6～1完掘状況(西から)
60. ②-3区SD7完掘状況(北から)

61. ③-1区北側完掘状況(南から)
62. ③-1区南側完掘状況(北から)
63. ③-2区SD1完掘状況(南から)
64. ③-2区SD3・4完掘状況(南から)
65. ③-2区SK1完掘状況(南から)
66. ③-2区SK2完掘状況(南から)
67. ③-2区SP1完掘状況(南から)
68. ④-1区SK1完掘状況(南から)
69. ④-1区SK2出土状況(西から)
70. ④-1区SK2頭骨出土状況(西から)

図版6

71. ④-1区SK3完掘状況(東から)
72. ④-1区SK4完掘状況(南から)
73. ④-1区SK5完掘状況(南から)
74. ④-1区SK5セクション(西から)
75. ④-1区SK6完掘状況(東から)
76. ④-1区SK7完掘状況(南から)
77. ④-1区SK8完掘状況(北から)
78. ④-1区SK9完掘状況(西から)
79. ④-1区SK12完掘状況(南から)
80. ④-1区SK16完掘状況(南から)
81. ④-1区SK18完掘状況(南から)
82. ④-1区SP1完掘状況(南から)

図版7

83. ④-1区SD1完掘状況(南から)
84. ④-1区調査区東壁(西から)
85. ④-2区SK1完掘状況(南から)
86. ④-2区SK2完掘状況(東から)
87. ④-2区SK3人骨出土状況(北から)
88. ④-2区SK4完掘状況(南から)
89. ④-2区SK5完掘状況(西から)
90. ④-2区SK6完掘状況(西から)
91. ④-2区SK8セクション(南から)
92. ④-2区SK8完掘状況(西から)
93. ④-2区SK9完掘状況(東から)

図版8

94. ④-2区SK10完掘状況(西から)
95. ④-2区SK11完掘状況(西から)
96. ④-2区SK13セクション(南から)
97. ④-2区SK13完掘状況(東から)
98. ④-2区SP1完掘状況(南から)
99. ④-2区SP2完掘状況(南から)
100. ④-2区SP3完掘状況(南から)
101. ④-2区SP5完掘状況(南から)
102. ④-2区SP6完掘状況(南から)

- 103. ④-2区 SP7 完掘状況 (南から)
- 104. ④-2区 SP8 完掘状況 (南から)
- 105. ④-2区 SP9 完掘状況 (北から)
- 106. ④-2区 SP10 完掘状況 (西から)
- 107. ④-2区 SP12 完掘状況 (西から)
- 108. ④-2区 SX1 完掘状況 (西から)

図版 9

- 109. ⑤-1区 SK1 セクション (南から)
- 110. ⑤-1区 SK1 完掘状況 (南から)
- 111. ⑤-1区 SK2 完掘状況 (南から)
- 112. ⑤-1区 SK4 完掘状況 (西から)
- 113. ⑤-1区 SK5・6 完掘状況 (西から)
- 114. ⑤-1区 SK8 完掘状況 (西から)
- 115. ⑤-1区 SK9 完掘状況 (南から)
- 116. ⑤-1区 SK10 完掘状況 (南から)
- 117. ⑤-1区 SK12 完掘状況 (南から)
- 118. ⑤-1区 SK13 完掘状況 (東から)
- 119. ⑤-1区 SK14 完掘状況 (北から)
- 120. ⑤-1区 SK15 完掘状況 (南から)
- 121. ⑤-1区 SK16 完掘状況 (南から)
- 122. ⑤-1区 SP1 完掘状況 (南から)
- 123. ⑤-1区 SP2 完掘状況 (南から)

図版 10

- 124. ⑤-1区 SP3 完掘状況 (南から)
- 125. ⑤-1区調査区東壁 (西から)
- 126. ⑤-2区 SK1 完掘状況 (東から)
- 127. ⑤-2区 SK2 完掘状況 (南から)
- 128. ⑤-2区 SK3 完掘状況 (東から)
- 129. ⑤-2区 SK4 完掘状況 (東から)
- 130. ⑤-2区 SK5 完掘状況 (西から)
- 131. ⑤-2区 SK6 完掘状況 (東から)
- 132. ⑤-2区 SK7 セクション (南から)
- 133. ⑤-2区 SK7 完掘状況 (南から)
- 134. ⑤-2区 SK8 完掘状況 (南から)
- 135. ⑤-2区 SK9 完掘状況 (南から)

図版 11

- 136. ⑤-2区 SK10 完掘状況 (南から)
- 137. ⑤-2区 SK11 完掘状況 (南から)
- 138. ⑤-2区 SK12 完掘状況 (南から)
- 139. ⑤-2区 SK13 完掘状況 (南から)
- 140. ⑤-2区 SK14 完掘状況 (西から)
- 141. ⑤-2区 SK15 完掘状況 (西から)
- 142. ⑤-2区 SK16 完掘状況 (南から)
- 143. ⑤-2区 SP1 完掘状況 (北から)
- 144. ⑤-2区 SP2 完掘状況 (西から)

- 145. ⑤-2区 SP3 完掘状況 (南から)
- 146. ⑤-2区 SP4 完掘状況 (東から)
- 147. ⑤-2区 SP5 完掘状況 (東から)
- 148. ⑤-2区 SP6 完掘状況 (北から)
- 149. ⑤-2区 SP7 完掘状況 (東から)
- 150. ⑤-2区 SP8 完掘状況 (南から)
- 151. ⑤-2区 SP9 完掘状況 (東から)
- 152. ⑤-2区 SP10 完掘状況 (西から)
- 153. ⑤-2区 SP11 完掘状況 (東から)

図版 12

- 154. ⑤-2区 SP12 完掘状況 (南から)
- 155. ⑤-2区 SP13 完掘状況 (南から)
- 156. ⑤-2区 SP14 完掘状況 (南から)
- 157. ⑤-2区 SP15 完掘状況 (南から)
- 158. ⑤-2区 SP16・17 完掘状況 (西から)
- 159. ①区調査前状況 (南から)
- 160. ②区調査前状況 (南から)
- 161. ③区調査前状況 (南から)
- 162. ④・⑤区調査前状況 (北から)
- 163. ①区表土掘削状況
- 164. ⑤区埋戻し作業
- 165. 基準点測量
- 166. 調査風景
- 167. 調査風景
- 168. ボール撮影による写真測量
- 169. 遺物洗浄作業
- 170. 遺物復元作業
- 171. 遺物実測作業

図版 13

遺物 1～18

図版 14

遺物 19～36

図版 15

遺物 37～65

図版 16

遺物 66～102

図版 17

遺物 103～128

図版 18

遺物 129～161

第1章 調査に至る経緯

山梨県中北建設事務所により都市計画道路高畑町昇仙峡線の拡幅工事が計画され、平成25年度から随時試掘調査を実施し、場所により本発掘調査を実施している。

中北建設事務所から依頼を受け、平成27年10月19日に試掘調査を実施した。その結果、千塚5丁目3183-1地点から中世の文化層と古墳時代前期文化層2面が確認できた。特に中世の文化層からは、骨片が出土したことから土坑墓となることが想定された。

また、千塚5丁目3176-4地点からもやや散漫ではあるが、中世と古墳時代の土器が出土したことから、この地点においても2層の文化層があることが想定され、本調査の対象と判断した。

平成27年10月21日付け中北建第11636号により「埋蔵文化財発掘の通知」を受理した。前述したとおり、工事の予定地点には埋蔵文化財が良好に保存されていることから、平成27年11月4日付け教学文第2415号で山梨県教育委員会から「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」工事の着手前に本発掘調査を実施するよう指導があった。

指導に基づき、甲府市教育委員会が調査機関を組織し、平成28年6月17日から本発掘調査に着手した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

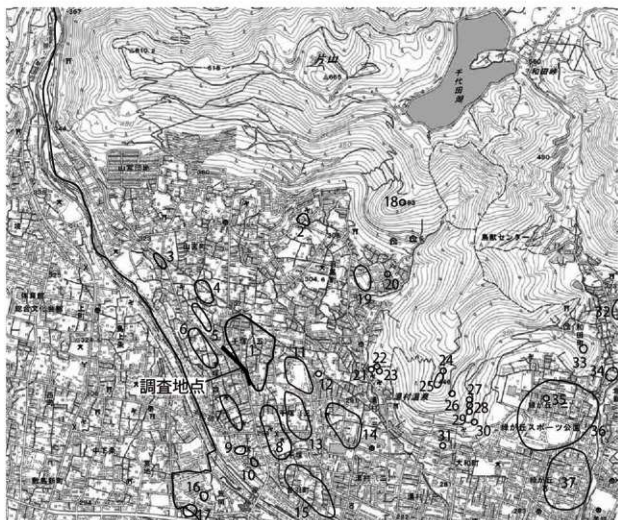
榎田遺跡は甲府盆地北西部、湯村山と片山に挟まれ、奥秩父の金峰山を源とする荒川の左岸、荒川によって開析された扇状地上に位置する。

今回の調査区(甲府市千塚5丁目3183-2他地点)は、標高299m～304m程で南東に向かい緩やかに傾斜しており、荒川の氾濫により形成された自然堤防上の微高地に立地している。

第2節 歴史的環境

本遺跡が立地する荒川左岸の扇状地上には縄文時代から中・近世に至るまでの遺跡が分布している。本遺跡周辺は「千塚」の地名が示すように、周辺には多数の古墳が分布していたといわれ、特に古墳時代後期における古墳群は特筆されるものがある。本遺跡の東には本県第2位の石室規模を持つ加牟那塚古墳や万寿森古墳が見られ、古墳時代後期には笛吹市御坂町井之上に所在する姥塚古墳とともに盆地を二分する勢力が存在した地域といえる。また湯村山山麓(湯村山古墳群)や羽黒山山頂(天狗山古墳)では積石塚古墳が確認されている。榎田遺跡周辺には御蔵遺跡、天神北遺跡、天神西遺跡、跡部遺跡、塚本遺跡、金塚西遺跡、八幡東遺跡、音羽遺跡などから古墳時代の遺物が確認されており、塚本遺跡からは弥生時代後期、平安時代の竪穴建物36軒の他、弥生時代から古墳時代前期の方形周溝墓が8基確認されている。また本遺跡の東南方向には塩部遺跡があり、平成7年の調査において弥生時代後期の竪穴建物1軒、奈良・平安時代の竪穴建物8軒と弥生時代から古墳時代前期の方形周溝墓11基が確認され、平成13年から16年の調査では弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴建物45軒、掘立柱建物跡27棟の他、古墳時代前期の方形周溝墓4基が検出されている。

中世段階の遺跡としては、跡部遺跡、天神西遺跡、湯村山城跡、緑が丘二丁目遺跡がある。跡部遺跡には伊斐源氏の庶流である跡部伊賀守信秋の屋敷地の伝承があり、元龜二年(1571)に信秋により再建



1. 榎田遺跡 2. 若宮前遺跡 3. 鴨塚遺跡 4. 御蔵遺跡 5. 天神北遺跡 6. 天神西遺跡 7. 跡部遺跡
 8. 塚本遺跡 9. 西大坂A遺跡 10. 西大坂B遺跡 11. 金塚西遺跡 12. 加牟那塚遺跡 13. 神田遺跡
 14. 八幡東遺跡 15. 音羽遺跡 16. 穴塚遺跡 17. 西河原遺跡 18. 天狗山古墳 19. 天神平遺跡
 20. 羽根無名墳 21. 塩沢寺裏無名墳 22. 大平1号墳 23. 大平2号墳 24. 湯村山6号墳 25. 湯
 村城跡 26. 湯村山5号墳 27. 湯村山4号墳 28. 湯村山3号墳 29. 湯村山2号墳 30. 湯村山1
 号墳 31. 万寿森古墳 32. 永井遺跡 33. 三光寺山遺跡 34. 村之内遺跡 35. 和田無名墳 36. 緑が
 丘二丁目遺跡 37. 緑が丘一丁目遺跡

第1図 周辺の遺跡分布図

された穀蔵寺（現曹洞宗學柱寺）がある。平成22年の試掘調査では中世の居館に付設された廊に関連する土塁に伴う集石群が検出されている。また16世紀代の集積墓の可能性のある土坑が検出されている。湯村山城跡は湯村山山頂に占地している。築城は大永三年（1523）のことで、平野部に向かって張り出した地形のため山頂は眺望に優れ、甲府盆地のほぼ全域を視野に取めることができる。甲府盆地の防御を担う重要な拠点であったことが知られている。

〈参考文献〉

甲府市教育委員会 1992『甲府市遺跡地図』

甲府市教育委員会他 2004『塩部遺跡1—山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事に伴

う発掘調査報告書』甲府市文化財調査報告 24

甲府市教育委員会他 2005『塩部遺跡Ⅱ-山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査報告書』甲府市文化財調査報告 30

甲府市教育委員会他 2011『塚本遺跡-甲府市立千塚小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』甲府市文化財調査報告 55

甲府市教育委員会 2014『甲府市内遺跡X-平成21・22年度試掘確認調査報告書』甲府市文化財調査報告 68

山梨県 1998『山梨県史 資料編 1 原始・古代 1』

山梨県 2004『山梨県史 資料編 7 中世 4 考古資料』

第3節 榎田遺跡の過去の調査

これまで山梨県埋蔵文化財センター、甲府市、公益財団法人山梨文化財研究所により行われた主な調査結果を紹介する。山梨県埋蔵文化財センター、甲府市の調査はいずれも榎田遺跡として指定されている範囲の北側に位置する。

1. 平成4年-山梨県埋蔵文化財センター

遺構-住居跡 28軒（弥生時代後期1、古墳時代前期1、古墳時代後期12、奈良時代8、平安時代5、時期不明1）、方形周溝墓（古墳時代前期）、土坑 114基（縄文時代中期初頭3、古墳時代中期4、時期不明107）、溝状遺構3条（古墳時代前期1、時期不明2）、掘立柱建物1棟

遺物-土器（縄文時代前期～後期、弥生時代後期、古墳時代前期・後期、奈良時代、平安時代）

石器（縄文時代前期～後期、古墳時代、奈良時代、平安時代）

土製品（古墳時代後期）、鉄製品（古墳時代～平安時代）

特殊な遺物-古墳時代前期（特殊器台・有段口緑壺・隆帯裝飾壺・手焙り型土器）

古墳時代後期（土鈴・土製スプーン）、平安時代（甕型土器）



第2図 調査地点図（『山梨県史』より）

2. 平成8年（第2次）千塚5丁目-甲府市教育委員会

遺構-溝跡9条（溝跡には洪水の流路の可能性のある溝が含まれる。13世紀初頭から後半。）

竪穴建物1棟、ピット2基、土坑1基

遺物-溝跡-灰釉陶器、常滑甃、華南白磁、龍泉・同安窯青磁、外耳鍋、手づくねかわらけ

竪穴建物-土師器、須恵器の蓋、甕、16世紀後半の青花皿等

3. 平成8年（第3次）-甲府市教育委員会

平成4年調査地点の道路を挟んで東側に位置する。

遺構-溝跡8条、竪穴建物15棟、土坑22基

遺物-土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、

かわらけ、白磁、青磁、土製品、瓦、縄文土器等



第3図 調査地点図（『甲府市内遺跡Ⅲ』より）

4. 平成 25・26 年度調査—公益財団法人山梨文化財研究所

平成 25 年度

竪穴建物 1 棟、土坑 66 基、ピット 75 基、溝状遺構 28 条、不明遺構 2 基

竪穴建物—囲炉裏の痕跡。遺物は土師質土器、陶器片、青磁片、木質が付着する板状鉄製品、鉄製角釘片、凹石状石製品、砥石、火打ち石等。13 世紀中葉～14 世紀前葉

土坑墓 4 基—SK57 (頭位は北で顔面は東、人骨胴体部分に大型礫—抱石葬)・土師質皿・中国銭。
16 世紀後半代

溝状遺構—調査 2 区 SD1 は方形周溝墓に伴う溝もしくは区画溝の可能性。赤彩された弥生土器片。

平成 26 年度

竪穴建物 1 棟、土坑 82 基、ピット 10 基、溝状遺構 12 条

竪穴建物—板壁もしくは根太が付設されていた状況が推察。囲炉裏の下部の痕跡。遺物は土師質土器、陶器片、青磁片、鉄製刀子片や鑽状鉄製品。13 世紀中葉～14 世紀前葉

土坑墓 1 基—SK62 火葬墓 (土器類や墓誌等なし) SK70 集石土坑—陶器破片

溝状遺構—流路 6 条、道路側溝 4 条

5. 平成 27 年度調査—昭和測量株式会社

竪穴状遺構 2 基、土坑 17 基、ピット 85 基、溝跡 5 条

竪穴状建物—かわらけ、播鉢が出土、15 世紀末～16 世紀初頭

土坑墓 1 基—SK8 (頭位は北西で顔面は西、屈葬)、かわらけ、中国銭。16 世紀

溝状遺構—SD4・SD5 は方形周溝墓に伴う溝の可能性。広口壺の口縁などの土師器が主体を占める。



第 4 図 調査地点図

第3章 調査の方法

現地発掘調査は、平成28年6月17日から平成28年11月30日まで行った。調査区域(約540㎡)は西側に通る道路に沿って南北に細長い形状をしており、細い道路や調査対象外の区域により分断されていた。調査にあたっては宅地や商業地の出入り口の確保や掘削土の仮置場所が大きな問題となり、調査区域外に仮置場所を確保したうえで、調査区を①～⑤区に分け(③区は追加分)、それぞれの区画を2～3の小区画に細分して反転掘削作業を行った。

遺構の計測及び土層断面・遺物出土状況図の写真測量には、CUBIC社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」を使用した。「遺構くん」により作成した図面及び補正した写真はadobe社製「IllustratorCC2018」により全体図、個別図、土層断面図を作成した。

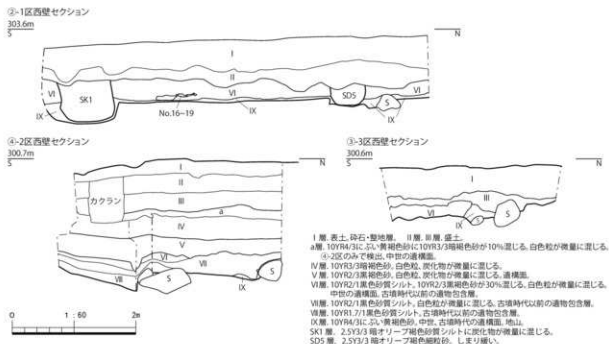
遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションにより位置を計測し取上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

第4章 調査の成果

第1節 基本層序

現況地盤より、0.5～0.6m下で遺構面を検出した。I層は碎石層、II～III層は市街化による整地に伴う盛土層である。a層はにぶい黄褐色の砂に暗褐色の砂が混じる砂層で、④-②区の西側一部分にのみ堆積している。IV～V層は暗褐色や黒褐色の砂層で中世の遺構面である。VI～VIII層は黒色砂質シルトを基調とする層で、この層には縄文時代前期から古墳時代前期の土器片が含まれていることから、古墳時代前期以前の包含層と考えられる。IX層は安定したにぶい黄褐色砂層で地山面である。

④-1区から⑤-1区北側にかけては、南東方向に延びる溝状の落ち込みが見られ、0.6～1.0m程地山面が落ち込み、V～VIII層が堆積している。



第5図 基本土層図

第2節 遺構と遺物

①～⑤区の5地点を調査し、溝状遺構(SD)39基、土坑(SK)73基(含土坑墓2基)、ピット(SP)70基、不明遺構(SX)1基が検出された。各遺構の計測値は観察表にまとめた。ここでは各区の概要と主な遺構について記載する。

①区(第6・11～13図、図版1～3・13)

調査は3つの小区画に分割して行った。①-1区及び①-3区で溝状遺構(SD)6基、土坑(SK)7基、ピット(SP)13基が検出された。①-2区は捜査が著しく、遺構は検出されなかった。

①-1区SD1・SD2(第11・34図、図版1・13)

①-1区南東隅で検出され、共に南北方向に向かって調査区外へと延びている。SD1の埋没後にSD2が構築されている。検出された規模はSD1が長さ5.5m、幅1.1m、深さ0.5mを測る。SD2は長さ3.7m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。

SD1の覆土は黒褐色砂質シルトで下層から弥生末～古墳時代前期にかけての壺の口縁と縄文土器片が出土している。

①-1区SD3・SD4(第11・34図、図版1・13)

①-1区北西隅で検出されている。SD4の埋没後にSD3が構築され、SD3はSK2・7・SP1・3を切っている。SD3の覆土からは水流の痕跡を示す砂層が確認でき、南東方向に向かって傾斜している。

SD3からは近世以降のものと思われる鉢の破片が出土している。SD4からは中世のかわらけの他に、流れ込みと考えられる弥生土器片が出土している。

①-1区SK3(第12・34図、図版2・13)

①-1区西壁に接して検出されている。円形を呈すると推測され、現状で長軸1.24m、短軸0.7m、深さ0.46mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトで古墳時代前期の甕の破片が出土している。

①-3区SD1(第13図、図版2)

①-3区南端より検出されている。水流の痕跡を示す砂層が互層となって堆積しており、断続的な流路であったと考えられる。検出された規模は長さ3.6m、幅1.7m、深さ0.7mを測り、南西方向に傾斜している。

②区(第7・14～18・34～36図、図版1・3～5)

調査は3つの小区画に分割して行った。溝状遺構(SD)28基、土坑(SK)4基、ピット(SP)24基が検出された。②-2区及び②-3区では南西方向に延びる溝状遺構が多数検出されている。幅0.3～0.4m、深さ0.2～0.3m程度の規模のものが多く、近代の耕作跡(畝跡)と考えられる。

②-1区SD6(第14図、図版3)

②-1区東壁に接し、前述の南西方向に延びる溝状遺構の下層より検出されている。検出された規模は長さ5.4m、幅1.0m、深さ0.6mを測る。

覆土は黒褐色砂が堆積していた。北西から南東方向に向かって傾斜しており、②-3区SD7と繋がるものと思われる。

②-1区SD7(第14・34図、図版13)

②-1区南壁に接して検出され、②-1区SD6を切っている。検出された規模は長さ3.0m、幅1.4m、深さ0.3mを測る。覆土は黒褐色砂が堆積していた。古墳時代前期の土師器片が出土している。

②-1区SK2(第15・34図、図版3・13)

②-1区西側から検出される。楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸1.18m、深さ0.56mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを含む暗オリーブ褐色砂が堆積していた。土師器甕の底部が1点出土している。

②-3区SD7(第18・36図、図版5・14)

②-3区東側から検出される。南西方向に延びる溝状遺構により切られている。検出された規模は長さ5.0m、幅1.2m、深さ0.2mを測る。北西方向から南東方向に傾斜しており、②-1区SD6と繋がるものと思われる。覆土にはぶい黄褐色砂を含む黒褐色砂が堆積していた。土師器片および縄文土器片が出土している。

③区(第8・19・36図、図版1・5・15)

調査は3つの小区画に分割して行った。溝状遺構(SD)3基、土坑(SK)2基、ピット(SP)1基を検出した。

③-1区北側は整地やインフラ整備による攪乱を受けており、ほとんど遺構は確認できなかった。また③-2区南側から③-3区にかけては荒川の氾濫に起因すると思われる礫層が検出されている。

③-2区SK1(第19・36図、図版5・15)

③-2区北壁に接して検出される。不整形を呈し、長軸1.59m、短軸1.15m、深さ0.3mを測る。覆土は黒色砂質シルト及びぶい黄褐色砂が混じる黒褐色砂が堆積していた。

土師器の羽釜、環が出土している。出土遺物から11世紀後半頃と考えられる。

③-2区SK2(第19・36図、図版5・15)

③-2区北側で検出される。楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸1.03m、深さ0.24mを測る。覆土は黒色砂質シルト及びぶい黄褐色砂が混じる黒褐色砂が堆積していた。かわらけが2点出土しており、16世紀の所産と考えられる。

④区(第9・20～27・37～39図、図版1・5～8・16・17)

調査は2つの小区画に分割して行った。溝状遺構(SD)1条、土坑(SK)32基、ピット(SP)13基が検出された。④区では頭骨を伴う2基の土坑墓のほか、径1.5m～2mの大形の土坑が重なり合って検出されている。

④-1区SK2(土坑墓)(第20・37図、図版5・15)

④-1区南側より検出される。不整形を呈し、検出された規模は長軸1.11m、短軸0.92m、深さ0.21mを測る。覆土は暗褐色砂が堆積していた。土坑内から3点の完形のかかわらけを伴って人骨が出土した。人骨は屈葬状態で出土し、頭骨及び大腿骨の一部が残存していた。頭位は北東で、顔は北を向いている。埋葬の際に西に向いていたものが北に振れた可能性がある。

かわらけは人骨背面に埋納されており、うち2枚はややずれた状態で合子状に重なり合って出土している。内部は土坑の覆土が詰まっており、内容物は確認されなかった。本遺構年代は出土遺物から16世紀と考えられる。

④-1区SK5(第22・37図、図版6・15)

④-1区南東隅より検出される。楕円形を呈すると推測され、検出された規模は長軸1.86m、短軸1.48m、深さ1.24mを測る。覆土は黒褐色砂ブロックが混じる暗褐色砂が堆積していた。

中世の土師質土器のほか、弥生土器片、土師器片が出土している。

④-1区SK6(第20・37図、図版6・15)

④-1区中央部より検出される。楕円形を呈し、長軸1.66m、短軸1.61m、深さ0.6mを測る。覆土は上層に暗褐色砂が堆積し、下層に黒褐色砂が堆積していた。須恵器片、古墳時代前期の土師器片が出土しているが、いずれも混入したものと考えられる。

④-1区SK18(第23・37図、図版6・16)

④-1区中央部より検出され、SK2・6・12・14・16・SD1により切られている。楕円形を呈し、長軸2.28m、短軸2.03m、深さ0.7mを測る。覆土は黒褐色砂が混じる暗褐色砂が堆積していた。古墳時代前期の土師器片と平安時代末期の土師器片が出土しているが、いずれも混入したものと考えられる。

④-2区SK3(土坑墓)(第25・38図、図版7・16)

④-2区東壁に接し、SK13の上層から検出される。方形を呈すると推測される。長軸1.2m、短軸0.92m、深さ0.26mを測る。覆土は暗褐色砂が堆積していた。

土坑内より人骨、完形のかわらけ2点、銭貨4枚(北宋銭「元豊通寶」3枚、南唐銭「開元通寶」1枚)が出土した。人骨は屈葬状態と思われるが依存状態は悪く、頭骨及び大腿骨の一部が残存していた。頭位は北西と思われる。かわらけ2点は底部を上にし、銭貨とともに遺体の上に置かれていたと推測される。本遺構の年代は出土遺物から16世紀と考えられる。

④-2区SK5(第26・38図、図版7・16)

④-2区南側より検出され、SK6を切っている。楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.08m、深さ0.7mを測る。覆土は上層に黒色砂質シルトブロックが混じる暗褐色砂、下層に黒褐色砂が堆積していた。かわらけ1点と銭貨1枚(北宋銭「皇宋通寶」)が出土している。

④-2区SK8(第26・38図、図版7・16)

④-2区中央部より検出され、SK13を切っている。楕円形を呈し、長軸1.56m、短軸1.52m、深さ1.04mを測る。中世の遺構面の第V層で検出された。覆土は黒色砂質シルトブロックを含む暗褐色砂が堆積している。古墳時代前期の土師器製の脚部が出土しているが混入したものと考えられる。

④-2区SK13(第25・38図、図版8・16)

④-2区東壁に接し、SK3・8・12・SX1・SP3～5によって切られている。円形を呈すると推測され、長軸2.42m、短軸1.74m、深さ0.74mを測る。中世の遺構面の第V層で検出された。覆土は黒色砂質シルトブロックを含む暗褐色砂が堆積し、下層には黒褐色砂が堆積している。古墳時代前期の土師器製の破片が出土しているが混入したものと考えられる。

⑤区(第10・28～33・40～42図、図版1・9～12・17・18)

調査は2つの小区画に分割して行った。溝状遺構(SD)1条、土坑(SK)30基、ピット(SP)19基が検出された。

⑤-1区SK1(第28・40図、図版9・17)

⑤-1区南側で検出され、SK12・13・17を切り、南東角は攪乱を受けている。不整形を呈し、長軸1.77m、短軸1.66m、深さ0.88mを測る。覆土は暗褐色砂が堆積している。16世紀代のかわらけが3点、古墳時代前期の土師器製の1点出土している。

⑤-1区SK9・SK10(第30・40図、図版9・17)

⑤-1区北側から検出される。SK9がSK10を切る。検出された規模は、SK9が長軸1.12m、短軸1.05m、

深さ 0.32 m を測り、円形を呈す。SK10 は長軸 1.18 m、短軸 0.74 m、深さ 0.28 m を測り、楕円形を呈すると推測される。SK9 からは灰釉陶器が 1 点出土し、SK10 からは土師器片が 1 点出土している。

⑤ -1 区 SK16 (第 30・40 図、図版 9・17)

SK9・10 の下層から検出される。円形を呈し、長軸 1.03 m、短軸 1.02 m、深さ 0.79 m を測る。覆土は上層がにぶい黄褐色砂が混じる暗褐色砂で、下層にはにぶい黄褐色砂が混じる黒褐色砂が堆積している。かわらけ 1 点と須恵器片が出土している。

⑤ -2 区 SK3・SK9・SK10 (第 31・41 図、図版 10・11・18)

⑤ -2 区中央部で検出される。SK10 は SK3 と SK9 に切られている。SK3 は方形を呈し、長軸 1.4 m、短軸 0.9 m、深さ 0.25 m を測る。SK9 は方形を呈すると推測され、長軸 1.06 m、短軸 0.97 m、深さ 0.71 m を測る。

SK10 は方形を呈すると推測され、長軸 1.14 m、短軸 0.96 m、深さ 0.26 m を測る。

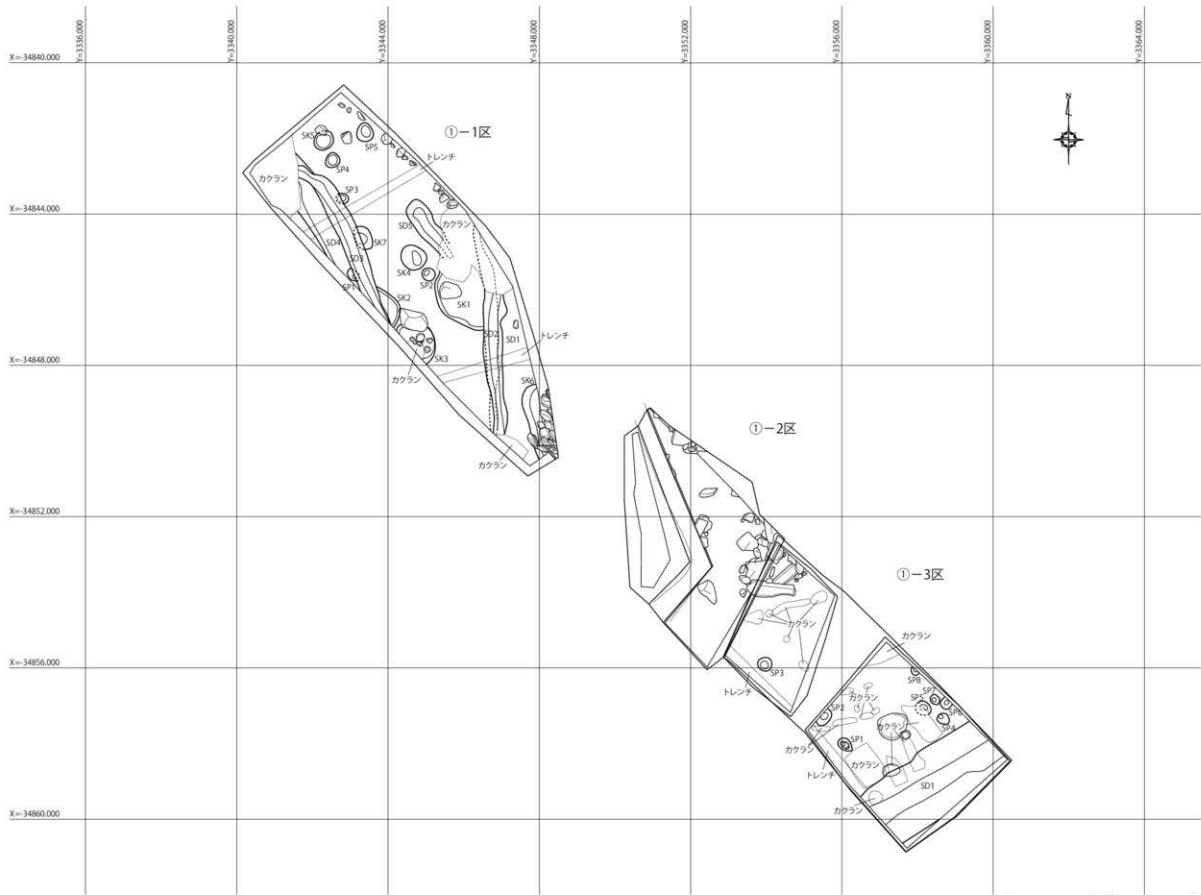
SK9 からは 16 世紀代のかかわり、土器の掻鉢の他、混入と考えられる弥生土器片が出土している。

⑤ -2 区 SK7 (第 32・41 図、図版 10・18)

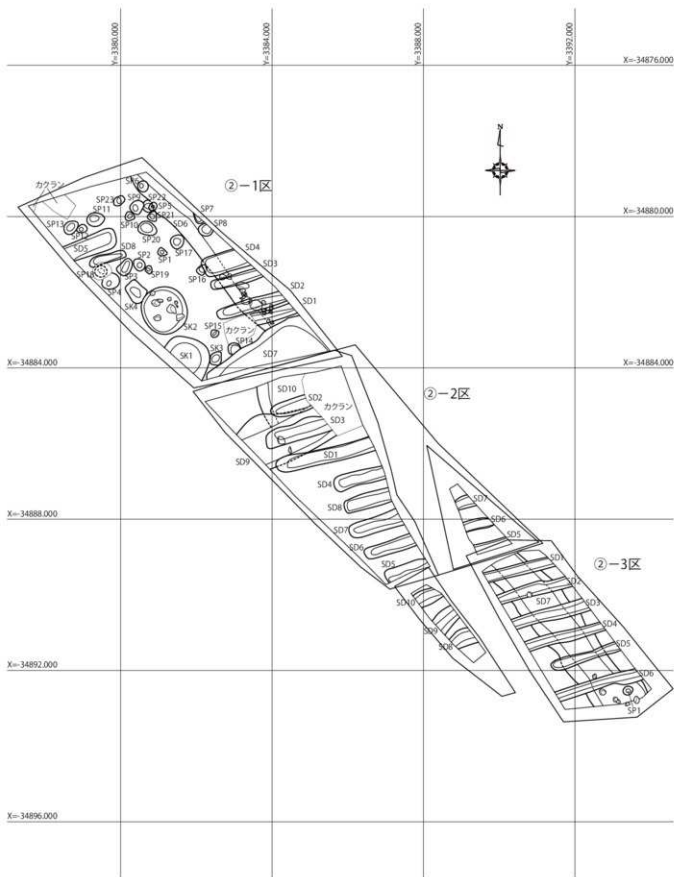
⑤ -2 区中央部で検出され、SK6 と SP11 により切られている。円形を呈し、長軸 1.6 m、短軸 1.52 m、深さ 0.53 m を測る。覆土はにぶい黄褐色砂が混じる暗褐色砂が堆積している。13～14 世紀代と考えられるかわらけが 1 点出土している。

⑤ -2 区 SK8・SK11・SK12・SK16 (第 32・41 図、図版 10・11・18)

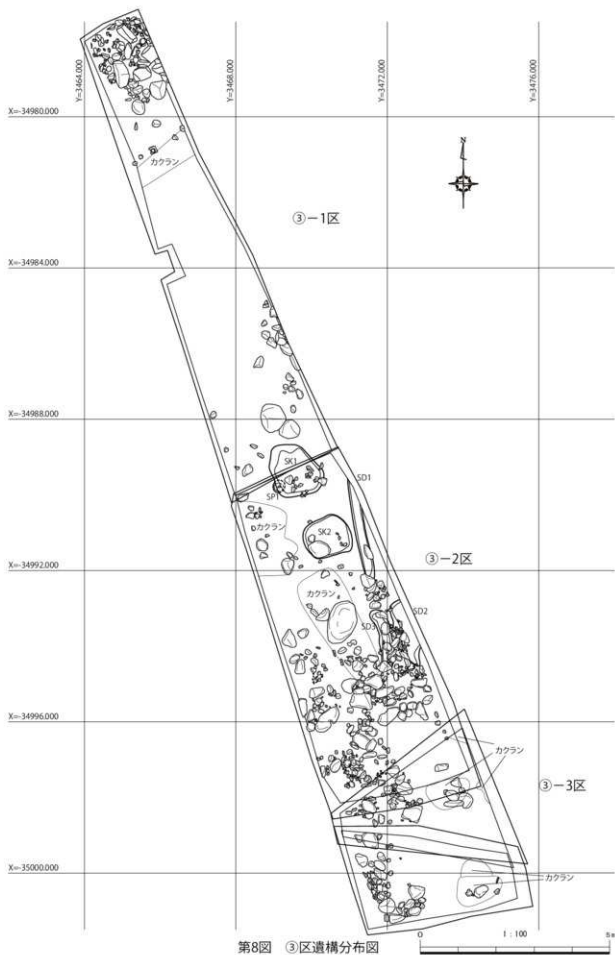
⑤ -2 区北側から検出される。SK12 は SK8・11 に切れ、SK16 を切る。SK8 からは 16 世紀のかかわり 2 点と銭貨 1 枚 (北宋銭「至和元寶」) が出土し、SK11・12 からは主に 16 世紀代のかかわりが出土している。



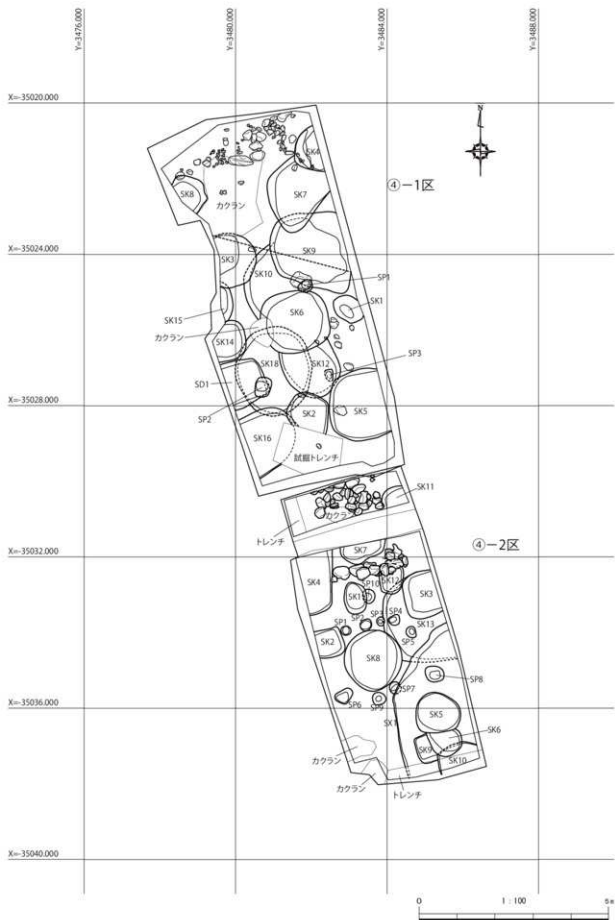
第6図 ①区遺構分布図



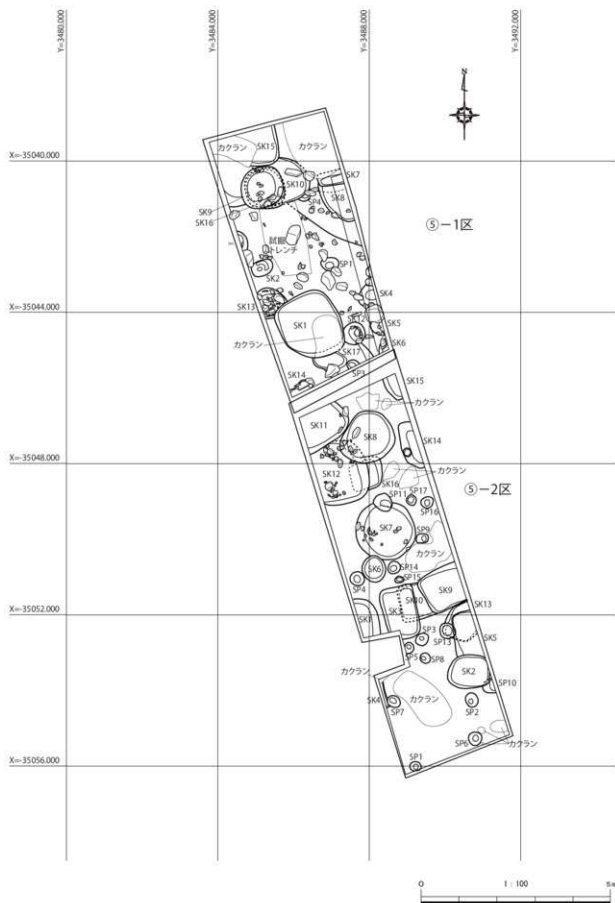
第7図 ②区遺構分布図



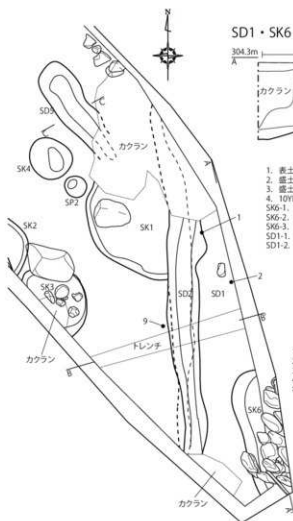
第8図 ③区遺構分布図



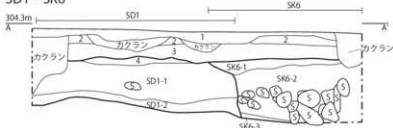
第9図 ④区遺構分布図



第10図 ⑤区遺構分布図



SD1・SK6



1. 表土 (碎石・整地層)
2. 盛土
3. 盛土
4. 10YR3/4 暗褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂が 30% 混じる。
- SK6-1. 10YR3/4 暗褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂が 5% 混じる。
- SK6-2. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 10% 混じる。しまり強い。
- SK6-3. 10YR4/3 にふい黄褐色砂
- SD1-1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに白色粒が微量混じる。しまり強い。
- SD1-2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに 10YR4/3 にふい黄褐色砂ブロックが 10% 混じる。しまり強い。

SD1・SD2

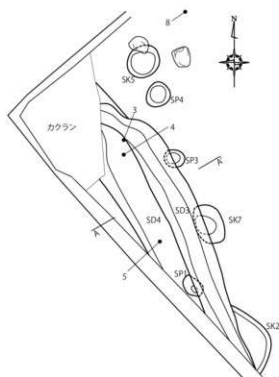


1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂に白色粒が微量混じる。しまり強い。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに白色粒が微量混じる。しまり強い。
 3. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR4/3 にふい黄褐色砂ブロックが 10% 混じる。しまり強い。
 4. 10YR3/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 30% 混じる。白色粒が微量に混じる。
- 地山. 10YR4/3 にふい黄褐色砂。しまり強い。

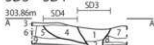
SD5



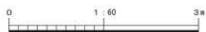
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 10% 混じる。
2. 10YR4/3 にふい黄褐色砂に 10YR3/4 暗褐色砂が 10% 混じる。



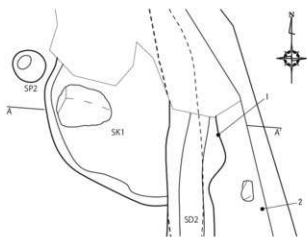
SD3・SD4



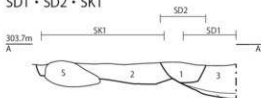
1. 10YR3/3 暗褐色砂に p3mm の小礫が混じる。砂利層。しまり強い。
2. 10YR3/3 暗褐色砂。砂層。しまり強い。
3. 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色砂に 10YR3/4 暗褐色粘土ブロックが微量混じる。しまり強い。
4. 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色砂に白色粒が多量混じる。しまり強い。
5. 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色砂に白色粒が微量混じる。
6. 10YR2/3 黄褐色砂質シルトに 10YR3/4 暗褐色砂が 5% 混じる。
7. 10YR1.7 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂質シルトが 20% 混じる。しまり強い。
8. 10YR2/3 黄褐色砂質シルトに 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 30% 混じる。しまり強い。
9. 10YR4/3 にふい黄褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂質シルトが 30% 混じる。しまり強い。



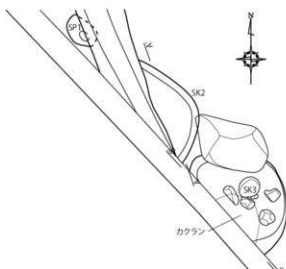
第 11 図 ①-1 区 SD1～5・SK6



SD1・SD2・SK1



1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂に白色粒が微量混じる。しまり穢い。
2. 10YR2/3黒褐色砂。しまり穢い。
3. 10YR2/2黒褐色砂質シルトに白色粒が微量混じる。しまり穢い。
4. 10YR2/2黒褐色砂質シルトに10YR4/3にふい黄褐色砂ブロックが10%混じる。しまり穢い。



SK2



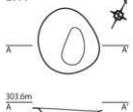
1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細粒砂に 10YR2/2 黒褐色砂質シルトが 10%混じる。しまり穢い。

SK3



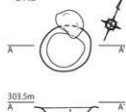
1. 表土 (碎石・整地層)
2. 盛土
3. 盛土
4. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 30%混じる。白色粒が微量に混じる。
5. 10YR2/3 黒褐色砂。しまり穢い。

SK4



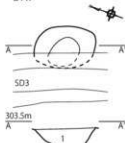
1. 10YR2/3黒褐色砂質シルトに 10YR4/3にふい黄褐色砂が 10%混じる。しまり穢い。

SK5



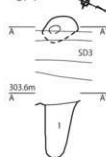
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂

SK7



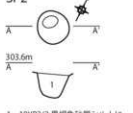
1. 10YR2/3 黒褐色砂に白色粒が微量に混じる。

SP1



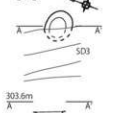
1. 10YR2/3黒褐色砂質シルトに 10YR4/3にふい黄褐色砂が 10%混じる。しまり穢い。

SP2



1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに白色粒子が微量に混じる。しまり穢い。

SP3



1. 10YR2/2黒褐色砂質シルトに白色粒が微量に混じる。しまり穢い。

SP4

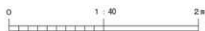


1. 10YR2/2黒褐色砂質シルトに白色粒が微量に混じる。しまり穢い。

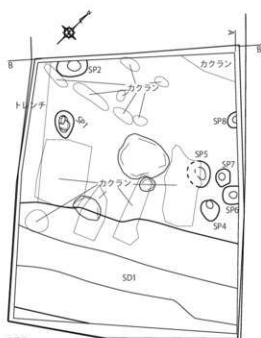
SP5



1. 10YR2/3黒褐色砂質シルトに 10YR4/3にふい黄褐色砂が30%混じる。しまり穢い。

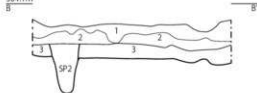


第 12 図 ①-1 区 SK1 ~ 5・7・SP1 ~ 5



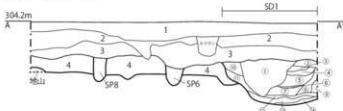
SP2

304.1m

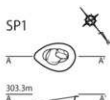


1. 盛土
 2. 盛土
 3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂に10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂が30%混じる。しまり緩い。
- SP2. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にぶい褐色砂が10%混じる。白色粒が微量に混じる。

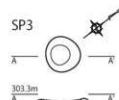
SD1・SP6・SP8



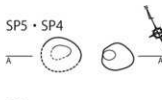
1. 表土(幹石・整地層)
 2. 盛土
 3. 盛土
 4. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 30%混じる。白色粒が微量に混じる。
- 地山. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
- SP6. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒を微量に含む。
- SP8. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒を微量に含む。
- ①. 10YR3/2 黒褐色細粒砂に 10YR4/4 褐色細粒砂が微量に混じる。しまり緩い。
 - ②. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細粒砂に 10YR6/4 にぶい黄褐色粗粒砂が 30%混じる。しまり緩い。
 - ③. 10YR6/4 にぶい黄褐色粗粒砂
 - ④. 10YR2/3 黒褐色細粒砂に 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂が微量に混じる。しまり緩い。
 - ⑤. 10YR2/3 黒褐色細粒砂に 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂が微量に混じる。しまり緩い。
 - ⑥. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂
 - ⑦. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂。しまり緩い。
 - ⑧. 10YR3/3 暗褐色細粒砂
 - ⑨. 10YR3/3 暗褐色細粒砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂が 10%混じる。しまり緩い。
 - ⑩. 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに白色粒子が微量に混じる。
 - ⑪. 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂が微量に混じる。しまり緩い。
 - ⑫. 10YR2/3 黒褐色シルト。しまり緩い。
 - ⑬. 10YR4/4 褐色細粒砂に 10YR2/3 黒褐色シルトが 30%混じる。しまり緩い。
 - ⑭. 10YR2/3 黒褐色シルト



1. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にぶい褐色砂が 10%混じる。白色粒が微量に混じる。



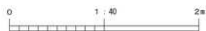
1. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にぶい褐色砂が 10%混じる。白色粒が微量に混じる。



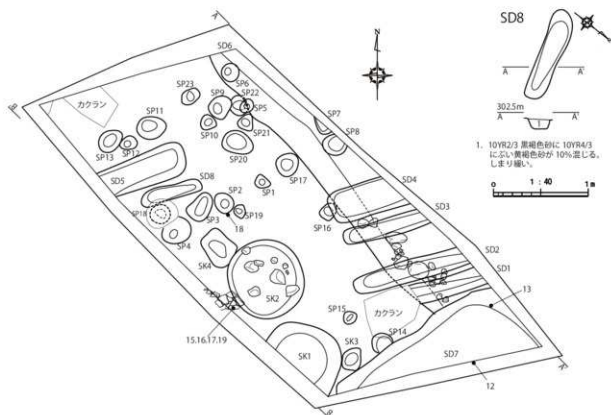
1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒が微量に混じる。



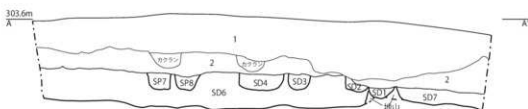
1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒が微量に混じる。



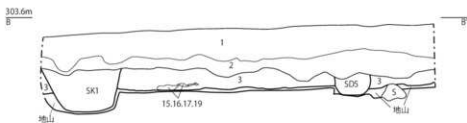
第 13 図 ①-3 区 SD1・SP1～8



SD1～4・SD6・SD7・SP7・SP8



SK1・SD5

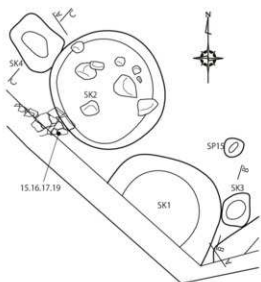


1. 表土 (碎石・整地層)
 2. 盛土
 3. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 30% 混じる。
白色砂が微量に混じる。
- SD1. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SD2. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SD3. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SD4. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SD5. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SD6. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR2/1 黒色が 30% 混じる。

- SK1. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色砂質シルトに炭化物が微量に混じる。
SP7. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
SP8. 2.5Y3/3 箱オリブ褐色細粒砂。しまり細かい。
地山. 10YR4/3 に 3Y1-黄褐色砂。しまり細かい。

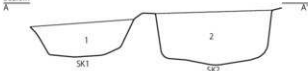


第 14 図 ②-1 区 SD1～8・SK1・SP7～8



SK1・SK2

302.6m



1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が10%混じる。しまり穢い。
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂に10YR2/2黒褐色砂質シルトが10%混じる。しまり穢い。

SK3

302.4m



1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が10%混じる。
2. 10YR4/3にふい黄褐色砂。

SK4

302.4m



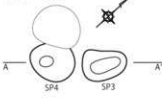
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR3/3暗褐色砂が10%混じる。
2. 10YR3/3暗褐色砂。しまり穢い。

SP1・SP2



1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。

SP3・SP4



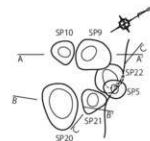
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。

SP5・SP6



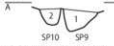
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。

SP9・SP10・SP20～22



SP10・SP9

302.6m



1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂。しまり穢い。
2. 10YR3/3暗褐色砂に2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂が30%混じる。しまり穢い。

SP20

302.5m



1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が10%混じる。しまり穢い。

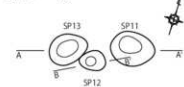
SP21・SP22

302.5m



1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が10%混じる。しまり穢い。

SP11～13



SP13・SP11

302.5m



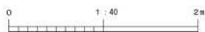
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が30%混じる。しまり穢い。
2. 10YR3/4暗褐色砂質シルトに10YR4/3にふい黄褐色砂が30%混じる。しまり穢い。

SP12

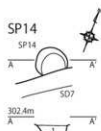
302.5m



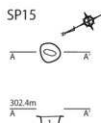
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にふい黄褐色砂が30%混じる。しまり穢い。



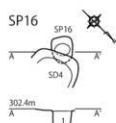
第15図 ②-1区SK1～4・SP1～6・9～13・20～22



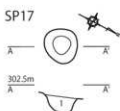
1. 10YR2/2黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



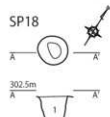
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



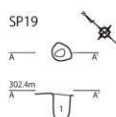
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



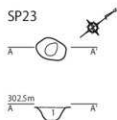
1. 10YR2/2黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



1. 10YR2/2黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



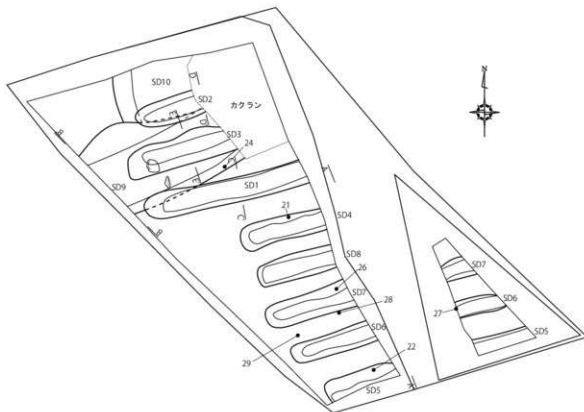
1. 10YR2/2黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



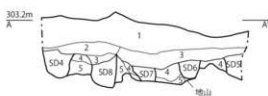
1. 10YR2/3黒褐色砂に10YR4/3にぶい
黄褐色砂が10%混じる。しまり強い。



第 16 図 ②-1 区 SP14 ~ 19・23



SD4~8



1. 表土 (碎石・整地層)
2. 盛土
3. 盛土
4. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂が 30% 混じる。白色粒が少量に混じる。
5. 2.5Y2/1 黒褐色砂質シルトに 10YR4/3 にぶい黄褐色砂が 5% 混じる。地山。10YR4/3 にぶい黄褐色砂に 2.5Y2/1 黒褐色砂質シルトが 30% 混じる。SD4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。SD5. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。SD6. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。SD7. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。SD8. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。

SD9



1. 表土 (碎石・整地層)
2. 10YR2/3 黒褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。白色粒 2%、灰化物 1%、赤色粒 1% 含む。
3. 10YR2/3 黒褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
4. 10YR2/3 黒褐色砂。2, 3 層に比べ層中に混じりなし。
5. 10YR3/2 黒褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
6. 10YR3/2 黒褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。5 層より明るい。

SD1



1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト。しまりやや強く、粘性強い。白色粒 2% 含む。

SD2

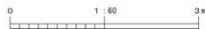


1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト。しまりやや強く、粘性強い。白色粒 2% 含む。

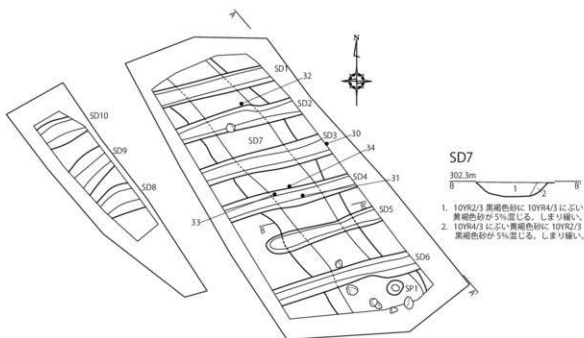
SD3



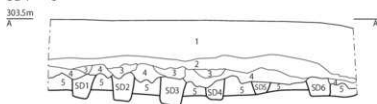
1. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト。しまりやや強く、粘性強い。白色粒 2% 含む。



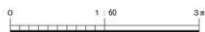
第 17 図 ②-2 区 SD1 ~ 10



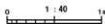
SD1 ~ 6



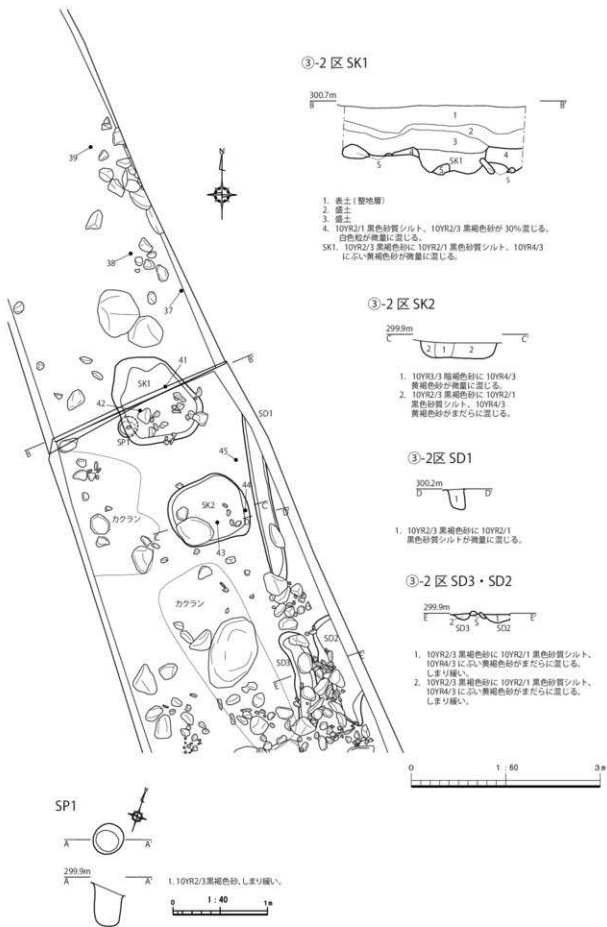
1. 表土 (碎石・整地層)
 2. 盛土
 3. 盛土
 4. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまり強く、粘性やや弱い。白色粒 3% 含む。
 5. 10YR2/3 黒褐色砂に 2.5Y2/1 黒色砂質シルトが 30% 混じる。白色粒が微量に混じる。
- SD1. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
- SD2. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
- SD3. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
- SD4. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
- SD5. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。
- SD6. 10YR4/3 に近い黄褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。



1. 10YR2/1 黒色砂に 10YR4/3 に近い黄褐色砂が 5% 混じる。しまり強い。

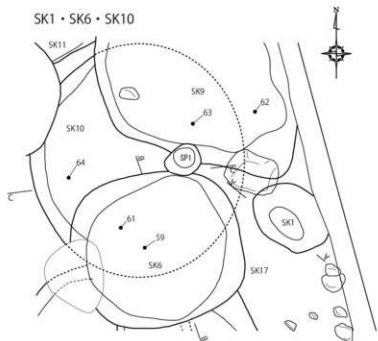


第 18 図 ②-3 区 SD1 ~ 10・SP1



第19図 ③-1区SD1・③-2区SD1～3・SK1～2・SP1

SK1・SK6・SK10



SK1

299.2m



1. 10YR3/3暗褐色砂に白色粒が微量に混じる。

SK6

298.8m



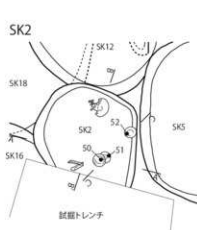
- 10YR3/3暗褐色砂に10YR6/1褐灰7%含む。しまり強く、粘性やや強い。白色砂3%、炭化物1%含む。
- 10YR3/3暗褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。白色粒1%含む。
- 10YR3/2黒褐色砂。しまり強く、粘性やや強い。
- 10YR3/2黒褐色砂に10YR5/4にふい黄褐色砂を1%マール状に含む。

SK6・SK10



- 10YR3/3暗褐色砂に10YR6/1褐灰7%含む。しまり強く、粘性やや強い。白色砂3%、炭化物1%含む。
- 10YR3/3暗褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。白色粒1%含む。
- 10YR3/3暗褐色砂に10YR5/4にふい黄褐色砂を7%含む。炭化物を1%含む。
- 10YR3/3暗褐色砂に10YR6/1褐灰を10%含む。炭化物を1%含む。
- 10YR3/2黒褐色砂。しまり強く、粘性やや強い。
- 10YR3/2黒褐色砂に10YR5/4にふい黄褐色砂を1%マール状に含む。

SK2



299.5m

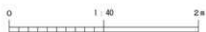


1. 10YR3/3暗褐色砂。炭化物、白色粒が微量に混じる。

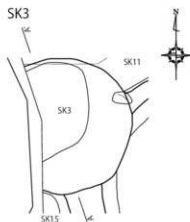
299.5m



299.5m

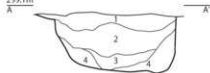


第20図 ④-1区 SK1・2・6・10



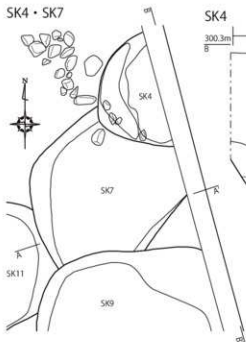
SK3

299.1m



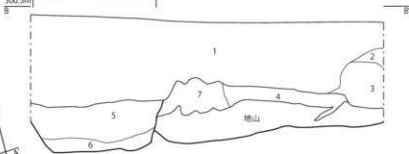
1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR6/1 緑灰を 7% 含む。しまり強く、粘性やや強い。白色粒 3%、炭化物 1% 含む。マンガンの集積を 5% 含む。
2. 10YR3/3 暗褐色砂。しまりやや強く、粘性やや強い。10YR6/1 緑灰を 7% 含む。1 層より白色粒が少ない。
3. 10YR3/2 黒褐色砂。しまり強く、粘性やや強い。
4. 10YR3/2 黒褐色砂に 10YR4/3 に近い黄褐色砂を 1% マール状に含む。

SK4・SK7



SK4

300.3m



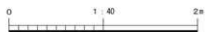
1. 黄土 (碎石・整地層)
 2. 黄土
 3. 10YR3/2 黒褐色砂に白色粒、炭化物が微量に混じる。
 4. 10YR2/2 黒褐色砂に白色粒、炭化物が微量に混じる。
 5. 10YR3/4 暗褐色砂に 10YR4/3 に近い黄褐色砂が微量に混じる。
 6. 10YR3/2 黒褐色砂に 10YR4/3 に近い黄褐色砂が微量に混じる。
 7. 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒、炭化物が微量に混じる。
- 地山: 10YR4/3 に近い黄褐色砂

SK7

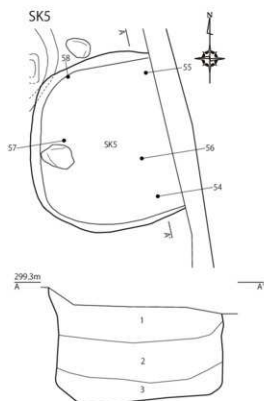
299.1m



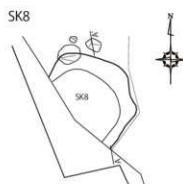
1. 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒、炭化物が微量に混じる。



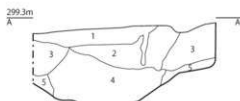
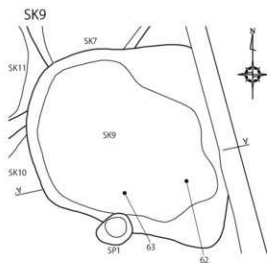
第 21 図 ④-1 区 SK3・4・7



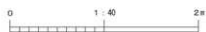
1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂ブロックが微量に混じる。炭化物、白色粒が3%混じる。
2. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/2 黒褐色砂ブロックが微量に混じる。炭化物、白色粒が2%混じる。
3. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/2 黒褐色砂ブロックが微量に混じる。



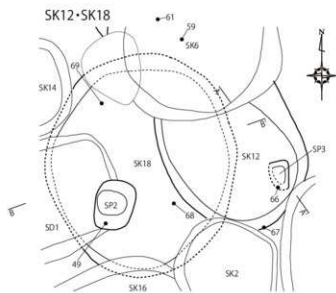
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土に 10YR6/1 褐灰を7%含む。しまり強く、粘性やや弱い。白色粒3%、炭化物1%含む。
2. 10YR3/3 暗褐色砂質土。しまりやや強く、粘性やや弱い。
3. 10YR3/3 暗褐色砂質土に 10YR5/4 に近い黄褐色砂ブロックを含む。しまり強く、粘性やや弱い。
4. 10YR3/2 黒褐色砂質土。しまり強く、粘性やや弱い。



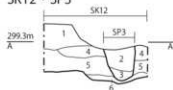
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土に 10YR6/1 褐灰が5%混じる。
2. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質土に 10YR3/3 暗褐色砂質土7%、10YR6/1 褐灰が2%混じる。しまり強く、粘性弱い。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土しまり強く、粘性やや弱い。
4. 10YR3/3 暗褐色砂質土。マンガンの集積層。しまりやや強く、粘性やや弱い。白色砂を1%含む。
5. 10YR3/2 黒褐色粘に 10YR5/4 に近い黄褐色砂ブロックが3%混じる。



第22図 ④-1区 SK5・8・9



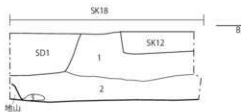
SK12・SP3



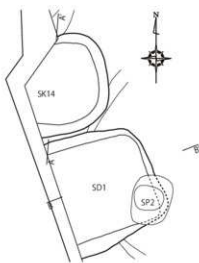
- 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒、炭化物が混じる。
- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒褐色砂質シルトが 3%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒褐色砂質シルトが 5%混じる。白色粒が微量に混じる。
- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトが 5%混じる。白色粒が微量に混じる。
- 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR3/3 暗褐色砂が 5%混じる。白色粒が微量に混じる。
- 10YR4/3 にふい黄褐色砂に 10YR3/3 暗褐色砂が 10%混じる。白色粒が微量に混じる。

SK18

299.2m
B



- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂がまだらに混じる。白色粒、炭化物が 3%混じる。
- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒褐色砂がまだらに混じる。白色粒が 1%混じる。
- 10YR3/3 黒色砂質シルトブロック
地山、10YR4/3 にふい黄褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトがまだらに混じる。



SK14

299.3m
A



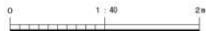
- 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 3%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
- 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。

SD1

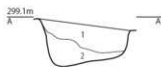
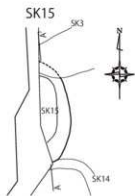
299.2m
B



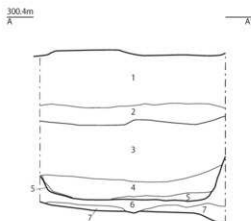
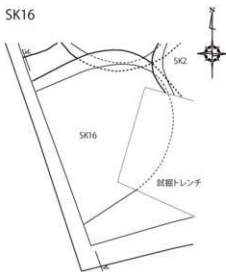
- 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 10%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。



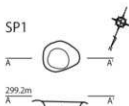
第 23 図 ④-1 区 SK12・14・15・18



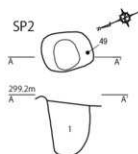
1. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 3% 混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
2. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色が 10% 混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。



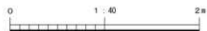
1. 表土 (碎石・整地層)
2. 腐土
3. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR3/3 暗褐色砂ブロックが 5% 混じる。白色粒が微量に混じる。
4. 10YR2/3 黒褐色砂に 10YR3/3 暗褐色砂ブロックが 10% 混じる。白色粒が微量に混じる。
5. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 5% 混じる。白色粒が微量に混じる。
6. 10YR2/1 黒色砂質シルトに 10YR2/3 黒褐色砂ブロックが 20% 混じる。
7. 10YR4/3 にふい黄褐色砂に 10YR2/3 黒褐色砂が 30% 混じる。



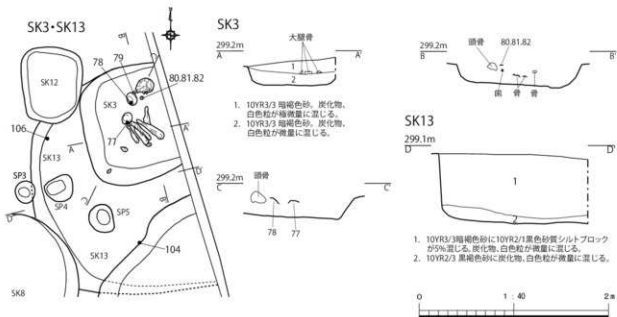
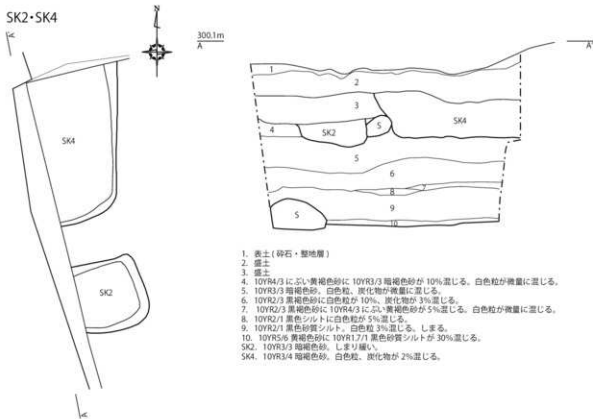
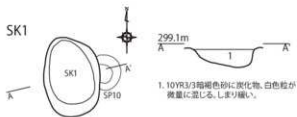
1. 10YR3/3 暗褐色砂に炭化物、白色粒が微量に混じる。



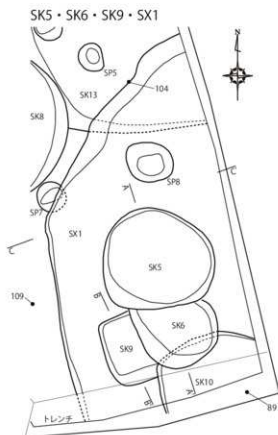
1. 10YR3/3 暗褐色砂に炭化物、白色粒が微量に混じる。



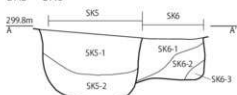
第 24 図 ④-1 区 SK15・16・SP1・2



第 25 図 ④-2 区 SK1 ~ 4・13



SK5・SK6



- SK5-1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 2%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
 SK5-2. 10YR3/2 黄褐色砂。白色粒が微量に混じる。
 SK6-1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 3%混じる。白色粒が微量に混じる。
 SK6-2. 10YR3/5 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 10%混じる。白色粒が微量に混じる。
 SK6-3. 10YR3/2 黄褐色砂。白色粒が微量に混じる。

SK9



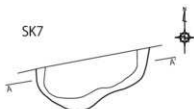
1. 10YR3/3 暗褐色砂に炭化物、白色粒子が微量に混じる。

SX1



1. 10YR3/3 暗褐色砂。白色粒、炭化物が微量に混じる。しまり細かい。

SK7

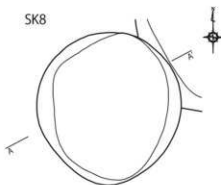


SK7

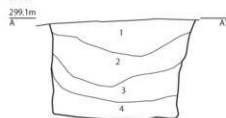


1. 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒、炭化物が微量に混じる。φ3mmの小礫が微量に混じる。しまり細かい。

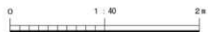
SK8



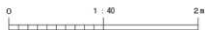
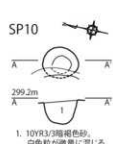
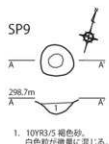
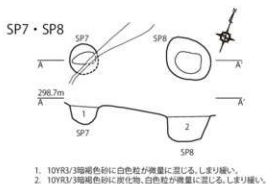
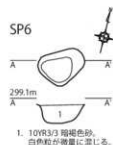
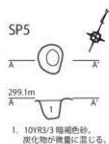
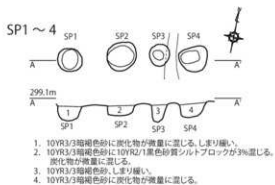
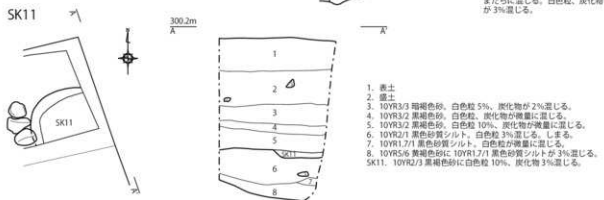
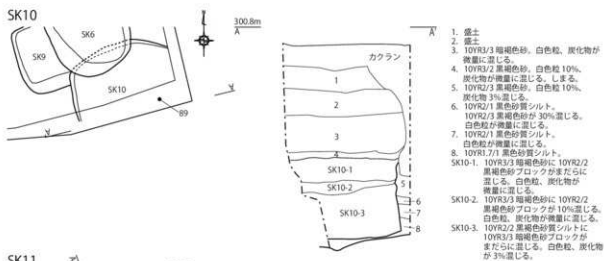
SK8



1. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 5%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
 2. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 10%混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。
 3. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 5%混じる。10YR4/3 にぶい黄褐色砂ブロックが 5%混じる。白色粒が微量に混じる。
 4. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR2/1 黒色砂質シルトブロックが 7%混じる。10YR4/3 にぶい黄褐色砂ブロックが 5%混じる。白色粒が微量に混じる。

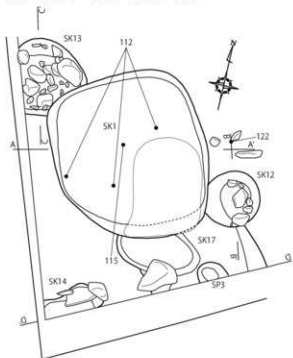


第 26 図 ④-2 区 SK5 ~ 9・SX1

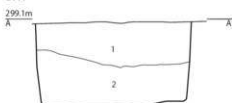


第 27 図 ④-2 区 SK10・11・SP1 ~ 10

SK1・SK12～SK14・SK17・SP3



SK1



1. 10YR3/3暗褐色砂、白色粒、炭化物が微量に混じる。しまり細かい。
2. 10YR3/3暗褐色砂、白色粒が極微量に混じる。しまり細かい。

SK12



1. 10YR3/3暗褐色砂に白色粒、炭化物が5%混じる。

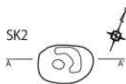
SK13



1. 10YR3/3暗褐色砂に10Y R4/3に濃い黄褐色砂が3%混じる。白色粒、炭化物が5%混じる。

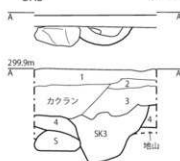
SK14・SK17・SP3

299.6m

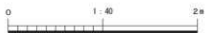


1. 10YR3/3暗褐色砂に10YR4/3に濃い黄褐色砂5%混じる。白色粒が微量に混じる。

SK3

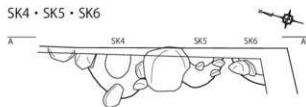


1. 表土 (碎石・整地層)
 2. 腐土
 3. 腐土
 4. 10YR3/3暗褐色砂、白色粒、炭化物が微量に混じる。
- 地山: 10YR4/3に濃い黄褐色砂。
SK3: 10YR3/3暗褐色砂、白色粒、炭化物が微量に混じる。しまり細かい。

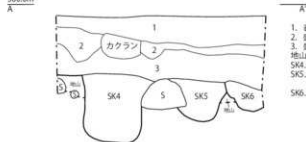


第28図 ⑤-1区SK1～3・12～14・17・SP3

SK4・SK5・SK6

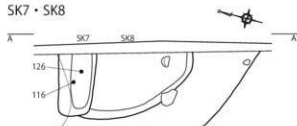


300.0m

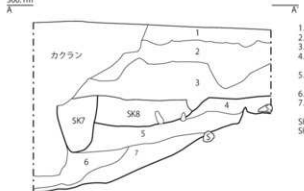


1. 表土 (碎石・盛土)
 2. 盛土
 3. 盛土
- 地山: 10YR4/3 にふい黄褐色砂。
- SK4: 10YR3/3 暗褐色砂。白色粒が微量に混じる。しまり細かい。
- SK5: 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 黄褐色砂が 5% 混じる。
白色粒が微量に混じる。しまり細かい。
- SK6: 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 黄褐色砂が 5% 混じる。
白色粒が微量に混じる。しまり細かい。

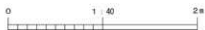
SK7・SK8



300.1m

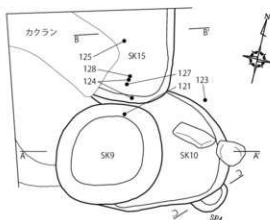


1. 表土 (碎石・整地層)
 2. 盛土
 3. 盛土
4. 10YR3/3 暗褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 5% 混じる。白色粒。炭化物が 3% 混じる。
5. 10YR2/3 黄褐色砂に 10YR3/3 暗褐色砂が 5% 混じる。白色粒。炭化物が 5% 混じる。
6. 10YR2/2 黄褐色砂質シルト。白色粒 5% 混じる。
7. 10YR2/3 黄褐色砂に 10YR4/3 にふい黄褐色砂が 5% 混じる。
白色粒 3% 混じる。
- SK8: 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒。炭化物が 3% 混じる。
- SK7: 10YR3/3 暗褐色砂に白色粒 2% 混じる。



第 29 図 ⑤-1 区 SK4～8

SK9・SK10・SK15・SP4



SK9・SK10



SK9, 10VR3/3 暗褐色砂に 10VR4/3 にふい黄褐色砂が 5% 混じる。白色粒、炭化物が微量に混じる。しまり織い。
SK10, 10VR3/3 暗褐色砂。白色粒、炭化物が微量に混じる。φ4cm 大小の小礫が混じる。しまり織い。

SK15



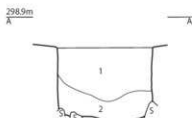
1, 10VR3/3 暗褐色砂に白色粒、炭化物が 5% 混じる。しまり織い。

SP4



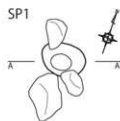
1, 10VR3/3 暗褐色砂に白色粒が 2% 混じる。しまり織い。

SK16

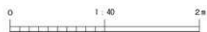


1, 10VR3/3 暗褐色砂に 10VR4/3 にふい黄褐色砂が 5% 混じる。白色粒、炭化物が 3% 混じる。しまり織い。
2, 10VR3/2 黒褐色砂に 10VR4/3 にふい黄褐色砂が 3% 混じる。白色粒が微量に混じる。しまり織い。

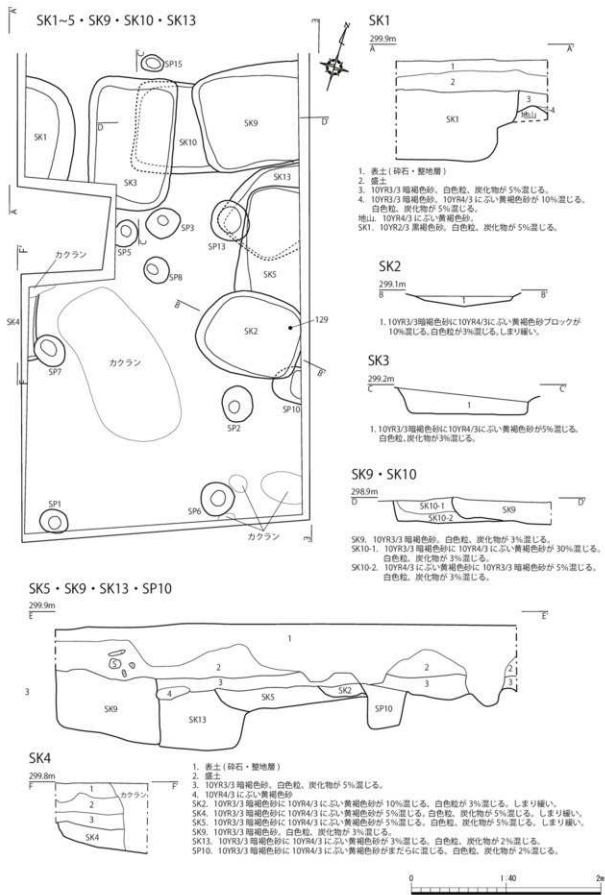
SP1



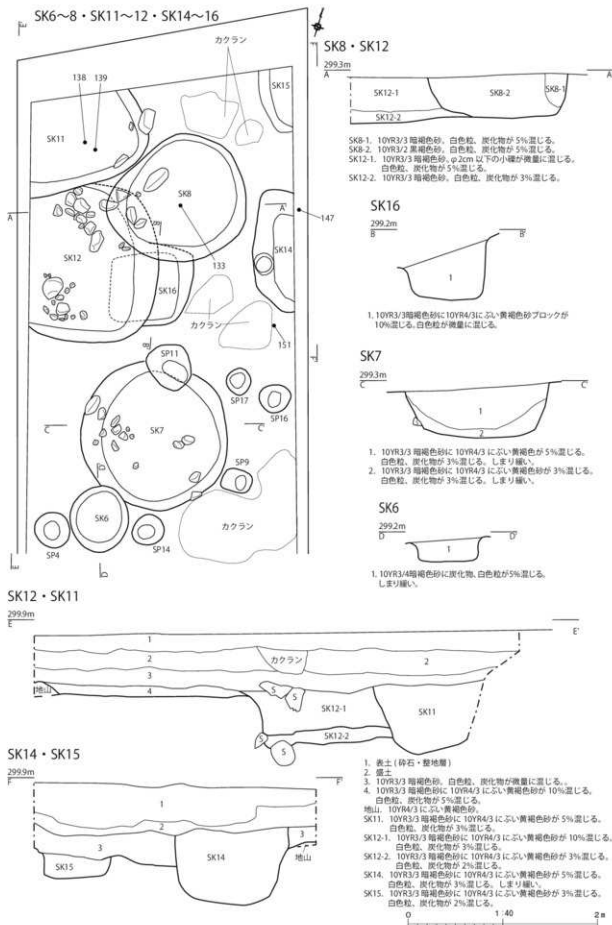
1, 10VR3/3 暗褐色砂に炭化物、白色粒が微量に混じる。しまり織い。



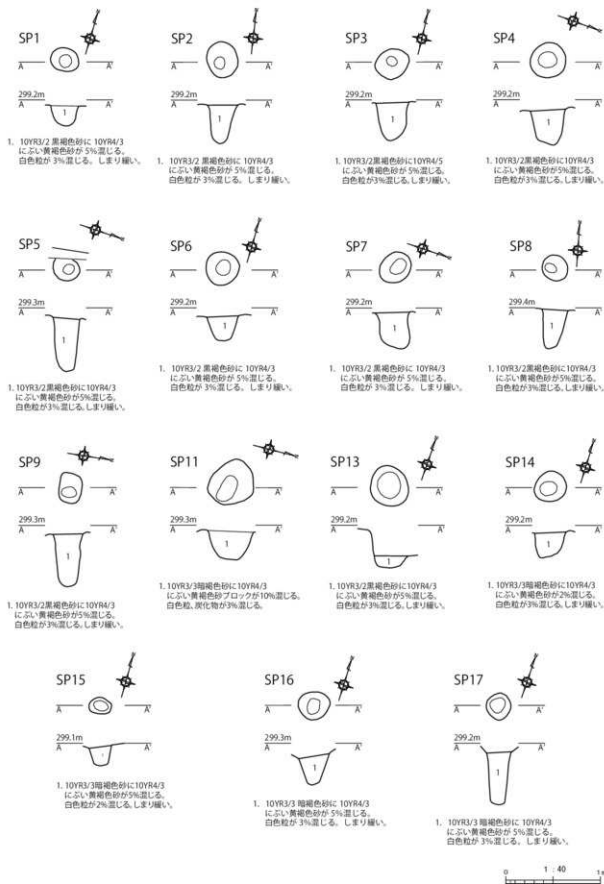
第 30 図 ㊦-1 区 SK9・10・15・16・SP1・4



第31図 ⑤-2区 SK1~5・9・10・13・SP10



第32図 ⑤-2区SK6~8・11・12・14~16



第33図 ⑤-2区 SP1～9・11・13～17

表1 溝状遺構計測表 (SD)

[] は残存値である。

図番号	調査区	遺構名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	重複関係	備考
11	①-1	SD1	[5.5]	[1.1]	[0.5]	SD1<SD1・SK6	古墳時代前期
11	①-1	SD2	[3.7]	[0.4]	0.2	SD1・SK1<SD2	
11	①-1	SD3	4.7	0.6	0.3	SK2・7・SP1・3<SD3	近世～近代
11	①-1	SD4	3.4	[0.6]	10.0	SP1<SD4	6世紀
11	①-1	SD5	[1.4]	0.5	0.2		
13	①-3	SD1	3.6	1.7	0.7		
14	②-1	SD1	[1.1]	0.4	0.2	SD6<SD1	近代の耕作跡か
14	②-1	SD2	[1.8]	0.3	0.1	SD6<SD2	近代の耕作跡か
14	②-1	SD3	[1.3]	0.4	0.3	SD6<SD3	近代の耕作跡か
14	②-1	SD4	[1.1]	0.7	0.3	SD6<SD4	近代の耕作跡か
14	②-1	SD5	[1.3]	0.6	0.4		
14	②-1	SD6	[5.4]	1.0	0.6	SD6<SD1～4・7・SP7～8	②-3SD7と接続。古墳時代前期
14	②-1	SD7	[3.0]	[1.4]	0.3	SD6<SD7	古墳時代前期
14	②-1	SD8	[1.0]	0.2	0.1		
17	②-2	SD1	[2.6]	0.8	0.2	SD9<SD1	近代の耕作跡か
17	②-2	SD2	[1.0]	0.4	0.3	SD9～10<SD2	近代の耕作跡か
17	②-2	SD3	[1.7]	0.5	0.3	SD9<SD3	近代の耕作跡か
17	②-2	SD4	[1.4]	0.4	0.5		近代の耕作跡か
17	②-2	SD5	3.4	0.3	0.2		近代の耕作跡か
17	②-2	SD6	[3.5]	0.3	0.3		近代の耕作跡か
17	②-2	SD7	[3.4]	0.4	0.2		近代の耕作跡か
17	②-2	SD8	[1.3]	0.4	0.5		近代の耕作跡か
17	②-2	SD9	[2.0]	1.3	0.7	SD9<SD3	
17	②-2	SD10	[0.9]	[12.2]	0.7	SD10<SD2	
18	②-3	SD1	[1.8]	0.3	0.4		近代の耕作跡か
18	②-3	SD2	[1.9]	0.4	0.3		近代の耕作跡か
18	②-3	SD3	[2.0]	0.4	0.5		近代の耕作跡か
18	②-3	SD4	[2.1]	0.3	0.3		近代の耕作跡か
18	②-3	SD5	[1.8]	0.3	0.2		近代の耕作跡か
18	②-3	SD6	[2.2]	0.3	0.3		近代の耕作跡か
18	②-3	SD7	[5.0]	1.2	0.2	SD7<SD1～6	②-1SD6と接続
18	②-3	SD8	[0.6]	0.5	0.4		近代の耕作跡か
18	②-3	SD9	[0.6]	0.5	0.4		近代の耕作跡か
18	②-3	SD10	0.6	0.4	0.4		近代の耕作跡か
19	③-2	SD1	[2.6]	0.3	0.3		
19	③-2	SD2	1.8	[0.5]	0.1		
19	③-2	SD3	1.6	0.3	0.1		
23	④-1	SD1	1.3	[1.0]	0.4		13世紀～14世紀

表2 土坑計測表 (SK・SX)

[] は残存値である。

図	調査区	遺構名	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考
12	①-1	SK1	楕円形	[174]	[132]	22	SK1<SD2	
12	①-1	SK2	楕円形	106	[41]	17	SK2<SD3	
12	①-1	SK3	円形	124	[70]	46		古墳時代前期か
12	①-1	SK4	円形	70	62	38		
12	①-1	SK5	円形	52	46	12		
11	①-1	SK6	円形	[185]	[35]	100		古墳時代か
12	①-1	SK7	楕円形	64	[28]	22	SK7<SD3	
15	②-1	SK1	楕円形	130	[74]	65		
15	②-1	SK2	楕円形	125	118	56		
15	②-1	SK3	不整形	39	32	32		
15	②-1	SK4	楕円形	59	44	36		
19	③-2	SK1	不整形	159	115	30	SP1<SK1	11世紀
19	③-2	SK2	楕円形	125	103	24		中世
20	④-1	SK1	不整形	86	63	25		
20	④-1	SK2	不整形	111	[92]	21	SK12・SK16・SK18<SK2	人骨出土・16世紀
21	④-1	SK3	円形	144	[96]	58	SK10～11・SK15<SK3	
21	④-1	SK4	楕円形	[124]	[68]	48	SK7<SK4	
22	④-1	SK5	楕円形	186	148	124	SK12<SK5	中世
20	④-1	SK6	楕円形	166	161	60	SK10・SK15<SK6	中世
21	④-1	SK7	不整形	[162]	[156]	22	SK7<SK4・SK9	
22	④-1	SK8	不整形	99	[72]	39		
22	④-1	SK9	不整形	218	[192]	78	SK7・SK10<SK9<SP1	中世
20	④-1	SK10	楕円形	[132]	[78]	56	SK10<SK3・6・9・SP1	中世
欠番	④-1	SK11						
23	④-1	SK12	楕円形	[144]	[130]	64	SK18<SK12<SK2・SK5～6	中世

表2 土坑計測表 (SK・SX)

[]は残存値である。

図	調査区	遺構名	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考
欠番	4-1	SK13						
23	4-1	SK14	楕円形	102	[89]	42	SK18<SK14	
24	4-1	SK15	楕円形	96		48	SK15<SK3	
24	4-1	SK16	楕円形	166	[126]	42	SK18<SK16<SK2	
欠番	4-1	SK17						
23	4-1	SK18	楕円形	[228]	[203]	70	SK18<SK2・SK6・SK12・SK14・SK16・SD1・SP2	中世
25	4-2	SK1	楕円形	84	60	17	SP10<SK1	
25	4-2	SK2	不整形	72	[70]	38		
25	4-2	SK3	方形	120	[92]	26	SK13<SK3	人骨出土・16世紀
25	4-2	SK4	方形	[156]	[99]	49		近代
26	4-2	SK5	楕円形	120	108	70	SK6<SK5	中世
26	4-2	SK6	不整形	85	[66]	42	SK6<SK5	中世
26	4-2	SK7	不整形	[118]	[52]	44		13世紀～14世紀
26	4-2	SK8	楕円形	156	152	104	SK13<SK8	
26	4-2	SK9	方形	75	[43]	42	SK9<SK6・10	
27	4-2	SK10	不整形	[114]	[56]	84	SK9<SK10<SK6	
27	4-2	SK11	楕円形	[68]	[48]	6		
欠番	4-2	SK12						
25	4-2	SK13	円形	242	[174]	74	SK13<SK12	
26	4-2	SK1	不整形	[348]	[192]	24	SK13・SP7<SK1<SK5～6	
28	5-1	SK1	不整形	177	166	88	SK12・13・17<SK1	中世 獣骨出土・16世紀
28	5-1	SK2	楕円形	58	41	30		
28	5-1	SK3	楕円形	70	[20]	50		
29	5-1	SK4	楕円形	78	[45]	72		
29	5-1	SK5	円形	59	[32]	42	SK5<SK6	
29	5-1	SK6	楕円形	[39]	[16]	26	SK5<SK6	
29	5-1	SK7	楕円形	66	41	56	SK8<SK7	
29	5-1	SK8	楕円形	[102]	[70]	31	SK8<SK7	
30	5-1	SK9	円形	112	105	32	SK10・SK16<SK9	
30	5-1	SK10	楕円形	[118]	[74]	28	SP4<SK10・SK16<SK9	
欠番	5-1	SK11						
28	5-1	SK12	楕円形	[58]	[55]	17	SK17<SK12<SK1	16世紀
28	5-1	SK13	不整形	82	[60]	28		
28	5-1	SK14	不整形	[65]	[20]	13		
30	5-1	SK15	方形	[98]	[74]	40	SK10<SK15	
30	5-1	SK16	円形	103	102	79	SK10・SK16<SK9	
28	5-1	SK17	不整形	130	[60]	40		
31	5-2	SK1	楕円形	[154]	[52]	71		
31	5-2	SK2	隅丸方形	109	89	11	SK5・SP10<SK2	15世紀～16世紀
31	5-2	SK3	方形	140	90	25	SK10<SK3	
31	5-2	SK4	方形	[66]	[9]	22	SK4<SP7	
31	5-2	SK5	方形	[154]	[63]	22	SK13<SK5<SK2・SP10	
32	5-2	SK6	楕円形	69	62	22	SK7<SK6	
32	5-2	SK7	円形	160	152	53	SK7<SK6・SP11	13世紀～14世紀
32	5-2	SK8	不整形	148	136	46	SK12<SK8<SK16	16世紀・土坑墓か
31	5-2	SK9	方形	106	[97]	71	SK10・SK13<SK9	16世紀
31	5-2	SK10	方形	[114]	96	26	SK10<SK3<SK9	
32	5-2	SK11	方形	[114]	[112]	72	SK12<SK11	16世紀
32	5-2	SK12	方形	[164]	[137]	53	SK16<SK12<SK8・SK11	16世紀
31	5-2	SK13	不整形	[94]	[72]	60	SK13<SK5<SK9<SP13	
32	5-2	SK14	不整形	128	44	76		16世紀
32	5-2	SK15	不整形	[70]	[35]	24		
32	5-2	SK16	方形	[88]	[87]	[64]		

表3 ビット計測表 (SP)

[]は残存値である。

図	調査区	遺構名	形態	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考
12	①-1	SP1	楕円形	36	[16]	56	SP1<SD4	
12	①-1	SP2	円形	36	32	26		
12	①-1	SP3	円形	28	18	14	SD3<SP3	
12	①-1	SP4	円形	40	36	16		
12	①-1	SP5	円形	48	45	14		
13	①-3	SP1	楕円形	44	30	31		
13	①-3	SP2	楕円形	45	[25]	80		
13	①-3	SP3	円形	38	36	42		

表3 ヒット計測表 (SP)

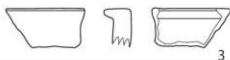
[] は残存値である。

図	調査区	遺構名	形態	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考
13	①-3	SP4	円形	32	28	38		
13	①-3	SP5	円形	40	[16]	32		
13	①-3	SP6	円形	[18]	[16]	18		
13	①-3	SP7	円形	28	22	12		
13	①-3	SP8	円形	16	[10]	24		
15	②-1	SP1	不整形	22	22	8		
15	②-1	SP2	円形	34	28	12		
15	②-1	SP3	楕円形	47	31	14		
15	②-1	SP4	楕円形	46	38	22		
15	②-1	SP5	楕円形	24	20	14	SD6・SP22<SP5	
15	②-1	SP6	楕円形	30	28	12	SD6<SP6	
14	②-1	SP7	楕円形	35	[15]	26	SD6<SP7	
14	②-1	SP8	楕円形	36	30	[20]	SD6<SP8	
15	②-1	SP9	不整形	38	32	22	SP22<SP9	
15	②-1	SP10	不整形	26	22	18		
15	②-1	SP11	不整形	47	36	16		
15	②-1	SP12	不整形	26	21	12		
15	②-1	SP13	楕円形	38	32	12		
16	②-1	SP14	楕円形	32	[16]	12		
16	②-1	SP15	不整形	22	20	16		
16	②-1	SP16	不整形	22	[16]	18	SP16<SD4	
16	②-1	SP17	不整形	38	34	15		
16	②-1	SP18	不整形	31	30	19	SP18<SD8	
16	②-1	SP19	不整形	20	19	28		
15	②-1	SP20	楕円形	50	38	12		
15	②-1	SP21	不整形	26	26	11		
15	②-1	SP22	楕円形	31	[28]	16	SP22<SP5	
16	②-1	SP23	不整形	32	23	14		
18	②-3	SP1	楕円形	26	24	14	SD7<SP1	
19	③-2	SP1	楕円形	33	32	28	SP1<SK1	
24	④-1	SP1	不整形	38	32	28		
24	④-1	SP2	楕円形	54	42	62		
23	④-1	SP3	不整形	32	[20]	34		
27	④-2	SP1	円形	27	25	15		
27	④-2	SP2	楕円形	32	30	10		
27	④-2	SP3	楕円形	23	20	18	SK13<SP3	
27	④-2	SP4	楕円形	30	26	14	SK13<SP4	
27	④-2	SP5	不整形	30	24	19	SK13<SP5	
27	④-2	SP6	不整形	48	36	18		
27	④-2	SP7	円形	31	30	19	SP7<SX1	
27	④-2	SP8	不整形	46	42	26		
27	④-2	SP9	不整形	34	33	11		
27	④-2	SP10	楕円形	37	[22]	23	SP10<SK1	
30	⑤-1	SP1	楕円形	44	34	25		
欠番	⑤-1	SP2						
28	⑤-1	SP3	楕円形	32	[21]	49		
30	⑤-1	SP4	楕円形	40	[17]	16	SP4<SK10	
33	⑤-2	SP1	楕円形	30	25	30		
33	⑤-2	SP2	不整形	38	32	41		
33	⑤-2	SP3	不整形	35	31	40		
33	⑤-2	SP4	円形	38	37	37		
33	⑤-2	SP5	不整形	28	[22]	56		
33	⑤-2	SP6	円形	36	35	25		
33	⑤-2	SP7	楕円形	32	32	39	SK4<SP7	
33	⑤-2	SP8	円形	27	26	40		
33	⑤-2	SP9	楕円形	32	24	54		
31	⑤-2	SP10	楕円形	38	30	41		
33	⑤-2	SP11	不整形	47	48	30	SK7 < SP11	
欠番	⑤-2	SP12						
33	⑤-2	SP13	楕円形	43	40	37	SK5・13<SP13	
33	⑤-2	SP14	不整形	34	32	26		
33	⑤-2	SP15	不整形	24	17	19		
33	⑤-2	SP16	不整形	33	30	28		
33	⑤-2	SP17	不整形	29	26	54		

①-1区
SD1



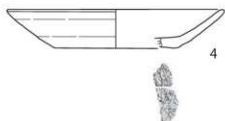
SD3



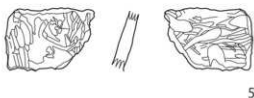
SK3



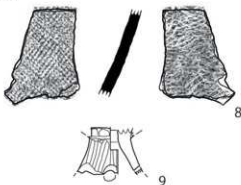
SD4



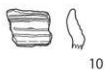
SK6



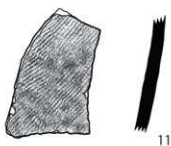
遺構外



①-3区
SP2



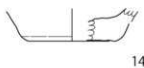
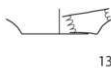
遺構外



②-1区
SD7

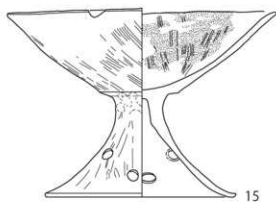


SK2



第34図 遺物実測図(1)

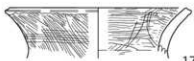
②-1区
遺構外



15



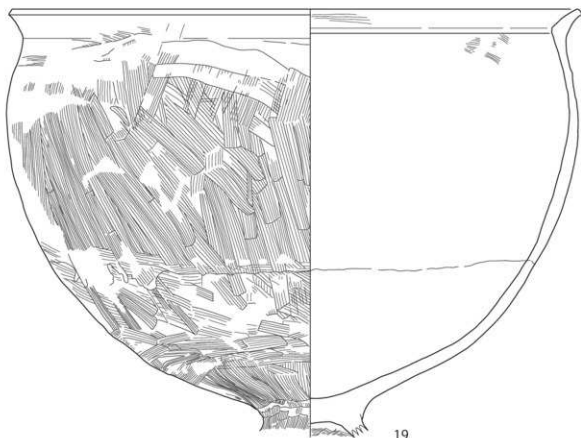
16



17



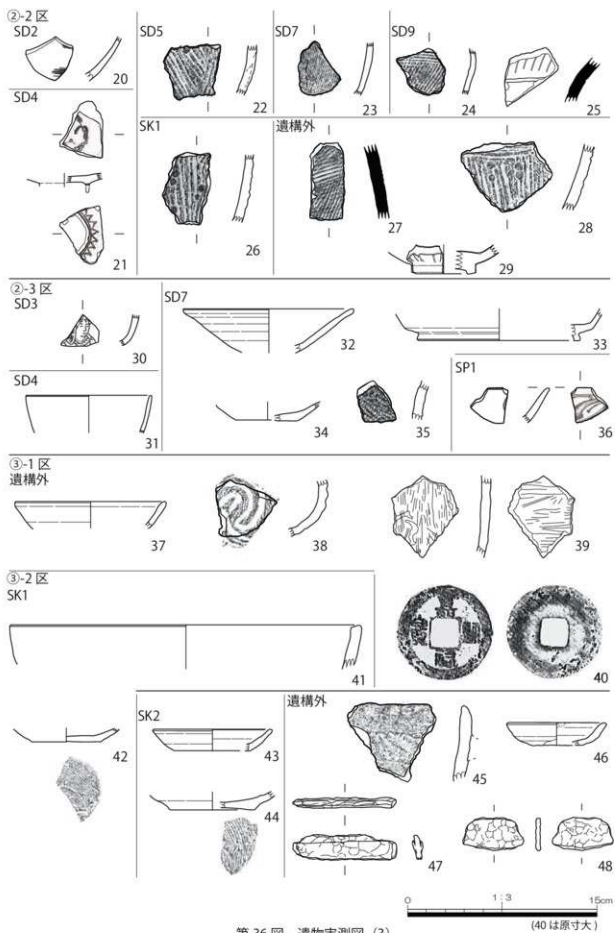
18



19

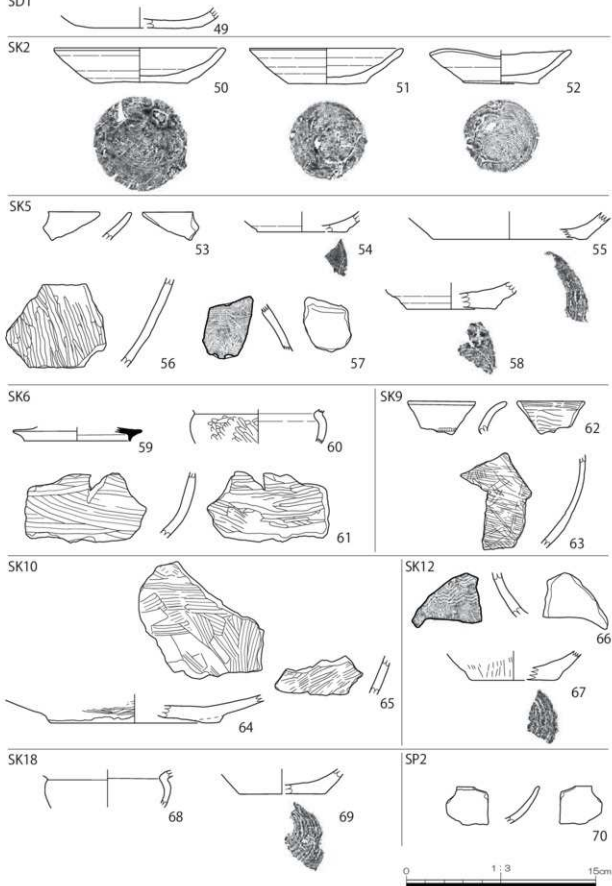


第35図 遺物実測図(2)



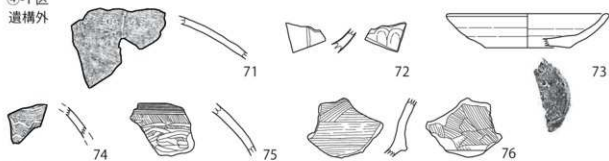
第36図 遺物実測図(3)

④-1区
SD1

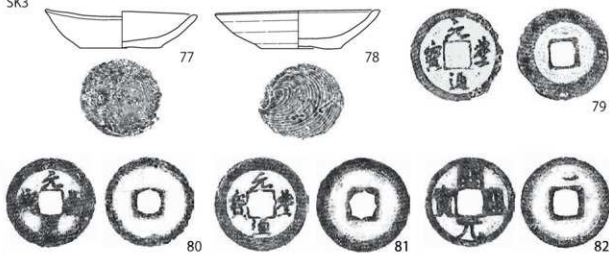


第37図 遺物実測図(4)

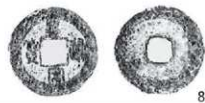
④-1区
遺構外



④-2区
SK3



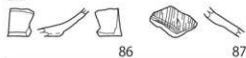
SK5



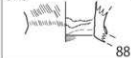
SK6



SK7



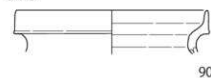
SK8



SK10



SK13



SX1



SP6

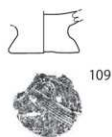
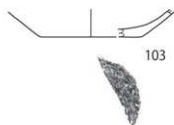
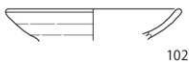
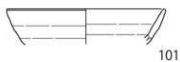
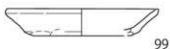
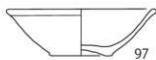
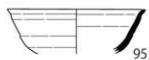


0 1:3 15cm

第 38 図 遺物実測図 (5)

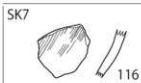
(79・80・81・82・84は原寸大)

④-2区
遺構外



第 39 図 遺物実測図 (6)

⑤-1区
SK1



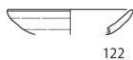
SK10



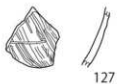
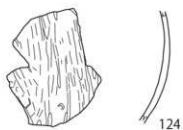
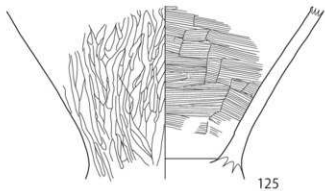
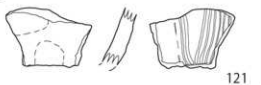
SK16



遺構外



SP2



第40図 遺物実測図(7)

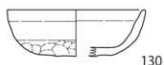
⑤-2区

SK2



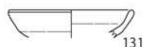
129

SK7



130

SK8

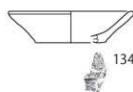


131



132

SK9



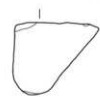
134



135



133

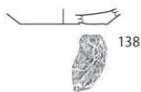


136

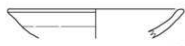
SK11



137



138



139

SK12



140



141



142



143



144



145



146

SK14

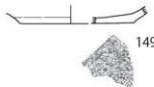


147



148

SP1



149

SP7

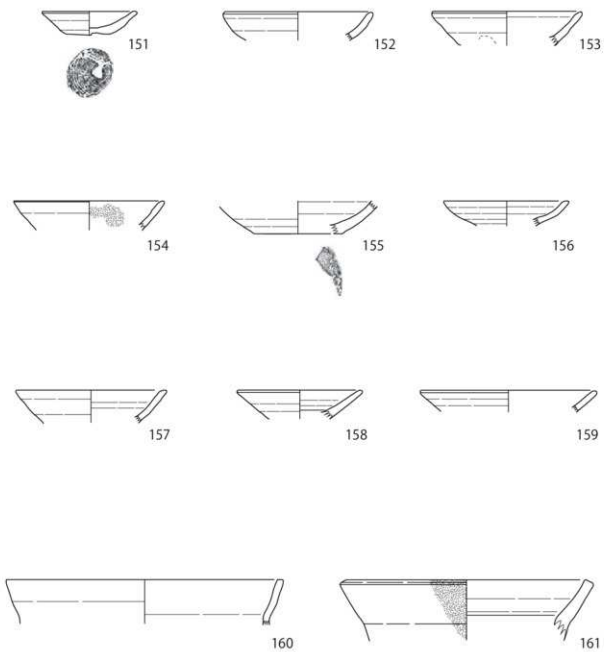


150



第41図 遺物実測図(8)

⑤-2区
遺構外



第42図 遺物実測図(9)

表4 土器観察表(1)

報告書番号	調査区	出土地点	種別	器種・器形	口径	法量 (cm)		部位	成形技法(外底/内底/底部/肩部)	外底	色調		胎土	形成備考
						口径	底径				高さ	内面		
34 1	①-1	S01	土師器	盃	—	—	(4.2)	口縁部	ハツメ/ミガキ	7.5R4.6 黄	7.5R4.6 黄	赤・砂緑・黒石・紫色 茶色胎土・赤色星	赤・黒石・良好 赤・黒石・良好	弥生末～古墳時代前期
34 2	①-1	S01	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	体部	ハノの字文/ナツ調整	107R6.4に赤い帯 黄	7.5R6.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土・赤	赤・黒石・良好 赤・黒石・良好	縄文時代中期後半
34 3	①-1	S03	土器	鉢小	—	—	(2.6)	口縁部	ナツ調整	7.5R4.1 赤灰	7.5R4.1 赤灰	赤・紫色胎土・白	良好	近世～近代
34 4	①-1	S04	土師質土器	小ハシタ	(17.2)	(10.0)	31	口縁部～底部	ロクコナツ/回転糸引	2.5R4.1 赤灰	107R6.6 黄	赤・紫色胎土	良好	16世紀
34 5	①-1	S04	弥生土器	赤もしくは黄	—	—	(4.8)	体部	ミガキ/ミガキ、指頭旺盛少	7.5R7.4に赤い帯 黄	7.5R7.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	赤・黒石・良好	弥生時代後期
34 6	①-1	S83	土師器	盃	—	—	(2.45)	胴部～体部	ハツメ	5R5.4に赤い帯 黄	5R5.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
34 7	①-1	S66	須弥器	盃	—	—	(3.9)	体部	タタキメ/ナツ調整	5R6.1 灰	5R6.1 灰	赤・黒石	良好	古墳時代
34 8	①-1	遺構外	須弥器	盃	—	—	(6.9)	体部	格子状タタキメ/青海波文状出典	NS0.0 灰	NS0.0 灰	赤・黒石	良好	古墳時代
34 9	①-1	遺構外	土師器	高台小	—	—	(3.7)	胴部	ミガキ、要行部に穿孔あり/ナツ調整	5R6.6 黄	5R6.6 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
34 10	①-3	S92	縄文土器	深鉢	—	—	(2.8)	口縁部	棒角均減/ナツ調整	5R6.4に赤い帯 黄	5R6.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	縄文時代前期後半
34 11	①-3	遺構外	須弥器	盃	—	—	(9.3)	体部	ナツメ/ハツ/ナツ調整	2.5R7.1 灰白	2.5R7.1 灰白	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
34 12	①-1	S07	土師器	盃	(13.6)	—	(4.9)	口縁部	ナツ調整/ハツメ/ナツ調整	7.5R5.3に赤い帯 黄	7.5R5.3に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
34 13	①-1	S07	土師器	赤もしくは黄	—	—	(6.0)	底部	ナツ調整	107R1/黒	7.5R7.3に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
34 14	①-1	S82	土師器	盃	(7.0)	(2.55)	—	底部	ナツ調整	5R4.4に赤い帯 黄	5R4.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
35 15	①-1	遺構外	土師器	高小	21.2	15.2	15.0	44は劣劣	ミガキ、口縁・胴部にナツ調整、 胴部にもカ所の穿孔/ミガキ、腹 付着	7.5R8.6 黄	7.5R8.6 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
35 16	①-1	遺構外	土師器	盃	—	—	12.6	胴部～体部	ナツメ/ハツ/胴部ヨコウ、体部ヨ コナツ	5R6.6 黄	5R6.6 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
35 17	①-1	遺構外	土師器	盃	(13.8)	—	(4.0)	口縁部～胴部	ナツメ/ハツ後、胴部にヨコハツ/ヨ コナツ	5R4.4に赤い帯 黄	5R4.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
35 18	①-1	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	(4.3)	体部	縄文/ミガキ	107R6.4に赤い帯 黄	7.5R6.4に赤い帯 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	縄文時代前期
35 19	①-1	遺構外	土師器	台付盃	(44.9)	—	(34.0)	口縁部～胴部	ナツメ/ハツ、一部ヨコウ、体部下 半に黄着面/ナツ調整、口縁部に ヨコハツ、体部下半に黄着面	5R6.6 黄	5R6.6 黄	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	古墳時代前期
36 20	①-2	S02	磁器	碗	—	—	(3.5)	体部	顔鉢、鉄付	黒	黒	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	近世
36 21	①-2	S04	磁器	碗	—	—	(4.0)	底部	顔鉢、鉄付	黒	黒	赤・黒石・赤 黒・紫色胎土	良好	近世

表4 土器観察表(2)

図	船名番 標記	調査区	出土 地点	種別	器種・器形	口径	法量 (cm)		部位	成形技法(外蓋/内蓋/底面/蓋面)	色調		船土	構成	備考
							口径	底径			外蓋	内蓋			
36	22	②-2	S05	縄文土器	深鉢	—	—	(3.95)	胴部	先羽状条線、ボタン状趾付文/ナ 字調整	外蓋 10YR6/4にぶい、黄緑 7.5YR6/6褐色	赤土 黒石・石 灰・金 色雲母・黒 色雲母	良好	縄文時代前期後半	
36	23	②-2	S07	土師器	甕	—	—	(4.2)	胴部	ナナメクハ後、コヨクハ/ナ字調整	10YR5/2灰黄褐色 7.5YR6/4にぶい、黄 緑	赤土 黒石・金 色雲母・黒 色雲母・赤 色	良好	古墳時代前期	
36	24	②-2	S09	土師器	甕	—	—	(3.65)	胴部	ナナメクハ後、コヨクハ/ナ字調整	10YR5/3にぶい、黄 緑	赤土 黒石・金 色雲母・黒 色雲母・赤 色	良好	古墳時代前期	
36	25	②-2	S09	須臾器	甕	—	—	(3.5)	胴部	ナ字後、縁方向へラ削り、縦方向SY6/1灰 調整/ナ字調整	5Y6/1灰	黒土 黒石・黒 色紅土	良好	古墳時代後期	
36	26	②-2	SK1	縄文土器	深鉢	—	—	(5.35)	胴部	先羽状条線、ボタン状趾付文/ナ 字調整	10YR5/3にぶい、黄緑 7.5YR5/6明緑	赤土 黒石・石 灰・金 色雲母・黒 色雲母	良好	縄文時代前期後半	
36	27	②-2	遺構外	須臾器	甕	—	—	(6.0)	胴部	格子状タタキ/ナ字調整	5Y7/1灰白	赤土 黒石・黒 色紅土	良好	古墳時代	
36	28	②-2	遺構外	縄文土器	甕	—	—	(5.2)	胴部	先羽状条線、ボタン状趾付文/ナ 字調整	10YR6/4にぶい、黄緑 5YR5/4にぶい、赤褐	赤土 黒石・石 灰・金 色雲母・黒 色雲母	良好	縄文時代前期後半	
36	29	②-2	遺構外	甕	碗	—	(5.0)	(2.3)	底部	煎鉢、縁縁折文、煎鉢	軸: 10YR6/2 オリーブ 灰 調整	赤土 黒石・黒 色紅土	良好	中世	
36	30	②-3	S03	須臾器	碗	—	—	(2.6)	胴部	煎鉢、女性像	5YR7/8橙	赤土	良好	近代	
36	31	②-3	S04	須臾器	碗	(9.8)	—	(3.0)	口縁部	煎鉢	軸: 2.5Y7/3 黄褐色 脚: 2.5Y8/3 黄褐色	赤土	良好	近世～近代	
36	32	②-3	S07	土師器	杯	(13.3)	—	(3.5)	口縁部～胴部	口クロナ字	5YR5.8明赤褐 7.5YR6/6 橙	赤土 黒石・金 色雲母・赤 色	良好	10世紀後半	
36	33	②-3	S07	土師器	高台付鉢	—	(12.7)	(2.6)	胴部～底部	ナ字調整/胎付高台	10YR8/3 黄褐色 7.5YR8/6 黄褐色	赤土 黒石・石 灰・黒 色雲母	良好	平安時代後期	
36	34	②-3	S07	土師器	杯	—	(5.0)	(1.45)	底部	口クロナ字	5YR6/6 橙	赤土	良好	10世紀後半	
36	35	②-3	S07	縄文土器	深鉢	—	—	(3.2)	胴部	縄文/ナ字調整	7.5YR6/4にぶい、黄 緑	赤土 黒石・金 色雲母	良好	縄文時代前期	
36	36	②-3	SPI	須臾器	碗	—	—	(2.8)	口縁部	煎鉢、糸付	軸: 5Y7/1 灰白 脚: 5Y7/1 灰白	赤土	良好	近世	
36	37	②-1	遺構外	土師器土器	かわらけ	(11.8)	—	(2.1)	口縁部～胴部	口クロナ字	7.5YR6/4にぶい、黄 緑	赤土 石灰・金 色雲母・赤 色	良好	15～16世紀か	
36	38	②-1	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	胴部	溝巻文/ナ字調整	7.5YR7/4にぶい、黄 緑	赤土 黒石・金 色雲母	良好	縄文時代後期	
36	39	②-1	遺構外	土師器	甕	—	—	(6.5)	胴部	タテハ/コヨクハ	7.5YR5/3にぶい、黄 緑	赤土 黒石・石 灰・黒 色雲母・赤 色	良好	古墳時代か	
36	41	②-2	SK1	土師器	羽釜か	(28.0)	—	(3.5)	口縁部	ナ字調整	7.5YR7/3にぶい、黄 緑	赤土 金色雲母・赤 色	良好	11世紀後半か	
36	42	②-2	SK1	土師器	杯	—	(5.4)	(1.1)	底部	口クロナ字(回転糸付)	7.5YR6/4にぶい、黄 緑	赤土 黒石・石 灰・黒 色雲母・赤 色	良好	10世紀～11世紀か	
36	43	②-2	SK2	土師器土器	かわらけ	(9.2)	(6.0)	(1.7)	口縁部～胴部	口クロナ字	10YR6/2 灰黄褐 10YR5/2 灰黄褐	赤土 黒石・赤 色紅土	良好	中世	

法量 () は復元推定値、[] は検出値である。

表4 土器観察表(3)

図番	調査区	出土地点	種別	器種・器形	法量 (cm)		部位	成形技法(内面/外面/底部/肩部)	色調			施土	形成	備考
					口径	底径			高さ	外周	内面			
36	①-2	SK2	土師質土器	㊦㊧5分	—	(6.8)	[1.45]	ロクロ子/回転糸切	107R/灰黄褐	7.57R5.4にふい	赤石・金色黄赤・赤色	赤石・金色黄赤・赤色	良好	中世か
36	③-2	遺構外	土師器	弁蓋	—	—	[6.0]	ナテ調整・内外面に指部圧痕、外周中央部に鈎痕	7.57R5.6明赤黒	7.57R5.4にふい	赤石・赤色	赤石・赤色	良好	11世紀後半か
36	①-2	遺構外	土師質土器	㊦㊧5分	(7.6)	(4.1)	[1.8]	ロクロ口部、口縁部に横付着	7.57R6.4にふい	7.57R6.4にふい	赤石・赤色	赤石・赤色	良好	16世紀
37	③-1	SD1	土師質土器	㊦㊧5分	—	(8.0)	[1.7]	型おとし、底跡手摺痕成形	7.57R6.4にふい	7.57R6.4にふい	赤石・赤色	赤石・赤色	良好	13世紀
37	③-1	SK2	土師質土器	㊦㊧5分	13.4	7.4	2.8	ロクロ子/回転糸切	57R7/6	57R7/6	赤色黄赤・赤	赤色黄赤・赤	良好	16世紀
37	③-1	SK2	土師質土器	㊦㊧5分	12.2	6.2	2.8	ロクロ子/回転糸切	57R7/6	57R7/6	赤色黄赤・赤	赤色黄赤・赤	良好	16世紀
37	③-1	SK2	土師質土器	㊦㊧5分	10.8	6.0	2.7	ロクロ子/回転糸切	7.57R7/6	7.57R7/6	赤色黄赤・赤	赤色黄赤・赤	良好	16世紀
37	③-1	SK5	土師質土器	㊦㊧5分	—	—	[2.2]	口縁部	7.57R6.6	7.57R6.6	赤色黄赤・赤	赤色黄赤・赤	良好	中世
37	③-1	SK5	土師質土器	㊦㊧5分	—	(7.0)	[1.6]	ロクロ子/回転糸切	57R6.6	57R6.6	赤色黄赤・赤	赤色黄赤・赤	良好	中世
37	③-1	SK5	土師質土器	匱	—	(12.2)	[2.2]	ロクロ子/回転糸切	7.57R7.4にふい	7.57R7.4にふい	赤石・赤色黄赤・赤	赤石・赤色黄赤・赤	良好	中世か
37	③-1	SK5	土師器	匱	—	—	[7.0]	ミガキ/ナテ調整	7.57R6.6	7.57R6.6	赤石・金	赤石・金	良好	弥生-古墳時代
37	③-1	SK5	弥生土器	匱	—	—	[3.8]	横線波状文/ナテ調整	7.57R6.4にふい	7.57R6.4にふい	赤色黄赤・赤色	赤色黄赤・赤色	良好	弥生時代後期
37	③-1	SK5	土師器	匱	—	(7.0)	[2.2]	ロクロ子/回転糸切	107R7/3にふい	107R7/3にふい	赤石・赤色	赤石・赤色	良好	中世
37	③-1	SK6	須磨器	蓋	(8.2)	—	[1.1]	ロクロ子	NS0灰	NS0灰	赤石・黒色	赤石・黒色	良好	古墳時代後期
37	③-1	SK6	土師器	蓋	—	(2.7)	[2.7]	ミガキ/ナテ調整	7.57R6.4にふい	7.57R6.4にふい	赤石・赤色黄赤・赤	赤石・赤色黄赤・赤	良好	古墳時代前期
37	③-1	SK6	土師器	匱	—	—	[5.3]	ミガキ/ナテ調整	7.57R6.4にふい	7.57R6.4にふい	赤石・赤色黄赤・赤	赤石・赤色黄赤・赤	良好	古墳時代前期
37	③-1	SK9	土師器	匱	—	—	[2.7]	ナテ調整/ヨコウ	7.57R7/6	7.57R7/6	赤石・赤色黄赤・赤色	赤石・赤色黄赤・赤色	良好	古墳時代前期
37	③-1	SK9	土師器	匱	—	—	[7.4]	ヨコウ/ナテ調整	57R6.6	107R7/2にふい	赤石・赤色黄赤・赤色	赤石・赤色黄赤・赤色	良好	弥生-古墳時代
37	③-1	SK10	土師器	匱	—	(13.4)	[2.3]	ミガキ/ヨコウ	107R7/3にふい	107R7/3にふい	赤石・赤色黄赤・赤色	赤石・赤色黄赤・赤色	良好	古墳時代前期
37	③-1	SK10	土師器	匱	—	—	[3.1]	ナメ/ナテ調整	7.57R7.4にふい	7.57R7.4にふい	赤石・赤色黄赤・赤色	赤石・赤色黄赤・赤色	良好	弥生-古墳時代

法量()は復元測定値、[]は残存値である。

表4 土器観察表(4)

図	所在地	調査 番号	調査 場所	形状・器形	口径	法量 (cm)		部位	成形技法(外蓋/内蓋/底面)	色調	胎土	焼成	備考
						口径	底径						
37	④-1	SK72	甕もしくは壺	—	—	—	—	胴部	彫描波状文/ナテ調整	7.5YR6/6 靑	赤土 長石・金 赤母・白 色粒・	良好	弥生時代前期
37	④-1	SK72	甕	(7.0)	—	—	—	底部	タテハツカ/ナテ調整/回転糸切	5YR4/1 靑灰	赤土・金 赤母・白 色粒・	良好	中世
37	④-1	SK78	壺	—	—	—	—	胴部	ケズリ・外蓋に横付着/ナテ調整	7.5YR6/4にぶい黄	赤土・金 赤母・黒 色粒・	良好	古墳時代前期
37	④-1	SK78	甕か	(7.0)	—	—	—	底部	ナテ調整・外蓋に横付着/ナテ調整	10YR5/4にぶい黄	赤土・金 赤母・黒 色粒・	良好	中世
37	④-1	SK72	甕	—	—	—	—	口縁部	ロクロナテ	7.5YR6/4にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	—
38	⑦-1	遺構外	甕	(3.4)	—	—	—	胴部	横状文・ナナメハツ/ナテ調整	10YR7/1にぶい黄	赤土・金 赤母・金 赤母・白 色粒・	良好	弥生-古墳時代
38	⑦-1	遺構外	甕か	(1.9)	—	—	—	胴部	横線波状文・横線	輪:7.5Y9/1 明緑 底:7.5Y8/1 灰白	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	中世
38	⑦-1	遺構外	かわらけ	(12.6)	(6.8)	—	—	口縁部~底部	ロクロナテ/回転糸切	10YR7/4にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	16世紀
38	⑦-1	遺構外	甕もしくは壺	(2.4)	—	—	—	胴部	彫描波状文/ナテ調整	7.5YR7/6 靑	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	古墳時代前期
38	⑦-1	遺構外	甕もしくは壺	(4.8)	—	—	—	胴部	ナナメハツ後・上部に横方角彫描 下部にミカガ/ナテ調整	10YR7/4にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	古墳時代前期
38	⑦-1	遺構外	甕	(4.7)	—	—	—	口縁部	ナナメハツ/ヨコハツ	2.5YR6/6 靑	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	二重口縁・古墳時代 前期
38	⑦-2	SK3	土師瓦工器	11.6	6.4	3.1	—	完全形	ロクロナテ/回転糸切	5YR7/6 靑	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	16世紀
38	⑦-2	SK3	土師瓦工器	12.4	6.3	3.1	—	完全形	ロクロナテ/回転糸切	5YR7/6 靑	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	16世紀
38	⑦-2	SK5	土師瓦工器	—	(8.4)	—	—	底部	ロクロナテ/回転糸切	7.5YR5/3にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	中世
38	⑦-2	SK6	土師瓦工器	—	(4.0)	—	—	底部	ロクロナテ/回転糸切	10YR5/3にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	中世
38	⑦-2	SK7	土師瓦工器	—	—	—	—	胴部~底部	型おこし・底部手押成形	7.5YR7/4にぶい黄	赤土・金 赤母・赤 色粒・	良好	13世紀~14世紀
38	⑦-2	SK7	土師器	—	—	—	—	胴部	ナナメハツ後ヨコハツ/ナテ調整	10YR4/2 灰黄緑	赤土・金 赤母・白 色粒・	良好	古墳時代前期
38	⑦-2	SK8	土師器	—	—	—	—	胴部か	タテハツ/ナテ調整	2.5Y7/1 黒色	赤土・金 赤母・赤 色粒・白 色粒・	良好	古墳時代前期か

法量()は復元法推定、[]は観察法である。

表 4 土器観察表 (5)

図	図号	調査年度	調査地区	出土地点	種別	形状・部形	法量 (cm)		部位	色調		胎土	完成	備考
							口径	高さ		外周	内周			
38	09	01-2	SK10	灰土陶器	腰なしくは蓋	—	[3.7]	胴部	ロクロナデ	SY72灰白	SY72灰白	白色粒・黒色	良好	平安時代後期
38	90	01-2	SK13	土師器	腰なしくは蓋	(5.2)	[3.5]	口縁部	ナデ調整	10YR8/4 黄黒褐色	10YR8/4 黄黒褐色	中・小粒 赤色粒・黒粒	良好	古墳時代前期
38	91	01-2	SK13	土師器	蓋小	—	[4.0]	胴部	ミガキ/ハケマ	7.5YR6/4 にぶい	2.5YR2 灰黄	中・小粒 灰石・黒粒	良好	古墳時代前期少
38	92	01-2	SP6	陶器	蓋	—	[8.3]	胴部	ヘラナグス、磨輪/ナデ調整、指摺	5YR5.2 灰ナリ	10YR4/2 灰黄褐色	中・小粒 赤・白赤粒・黒粒	良好	常世・15世紀～16世紀少
38	93	01-2	SK1	土師質土器	かた5分	(12.0)	—	口縁部	ロクロナデ	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	白色粒・白色	良好	中世
38	94	01-2	SK1	土師質土器	かた5分	(6.2)	[1.2]	蓋部	ロクロナデ/回転糸切	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒	良好	中世
39	95	01-2	遺構外	須器	片	(10.0)	[3.5]	口縁部～胴部	ロクロナデ	10Y9 灰	10Y9 灰	赤色粒	良好	古墳時代後期
39	96	01-2	遺構外	須器	片	(11.6)	—	口縁部	ロクロナデ	10YR6/1 赤灰	10YR6/1 赤灰	白色粒・黒色	良好	古墳時代後期
39	97	01-2	遺構外	土師器	片	(11.4)	[5.0]	口縁部～底部	ロクロナデ、口縁部は玉縁を置す、回転糸切	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・白色	良好	10世紀後半
39	98	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	(8.0)	[4.0]	口縁部	型おとし、底勝手型成形	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・赤	良好	13世紀～14世紀
39	99	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	(12.0)	[7.8]	口縁部～底部	型おとし、底勝手型成形	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・黒色	良好	13世紀～14世紀
39	100	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	(7.2)	[5.0]	口縁部～底部	ロクロナデ/回転糸切	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・赤	良好	16世紀
39	101	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	(12.4)	—	口縁部～胴部	ロクロナデ	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・黒色	良好	中世
39	102	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	(13.4)	—	口縁部～胴部	ロクロナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	赤色粒・赤	良好	16世紀
39	103	01-2	遺構外	土師質土器	かた5分	—	[8.0]	蓋部	ロクロナデ/回転糸切	7.5YR7/4 にぶい	7.5YR7/4 にぶい	白色粒・黒色	良好	15世紀少
39	104	01-2	遺構外	縄文土器	深鉢	—	[5.7]	口縁部	ヘラナグス、ナデ調整、指摺正置	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	赤色粒・赤色粒・白色粒	良好	縄文時代後期少
39	105	01-2	遺構外	縄文土器	深鉢	—	[3.2]	胴部	沈鉢、刺突文/ナデ調整	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/2 灰橙	赤色粒・赤色粒・白色粒	良好	縄文時代後期
39	106	01-2	遺構外	陶生土器	蓋	—	[3.2]	胴部	粟状文、横溝状文/ミガキ	5YR5.4 にぶい	5YR5.6 明赤褐色	赤色粒・赤色粒	良好	弥生時代後期
39	107	01-2	遺構外	土師器	蓋	—	[3.7]	口縁部	ナナメクハ後、三コクハ/ナデ調整	7.5YR7/4 にぶい	7.5YR7/4 にぶい	赤・白赤粒・赤色粒	良好	弥生時代後期
39	108	01-2	遺構外	甕	碗	—	[2.3]	口縁部	磨輪、鏡流井文/磨輪	黒粒・2.5YR6/1 オリーブ	黒粒・2.5YR6/1 オリーブ	赤色粒	良好	中世
39	109	01-2	遺構外	土師器	柱状高台	—	[5.4]	高台部	ナデ調整/磨輪糸切	7.5YR6/2 灰橙	7.5YR6/2 灰橙	赤・白赤粒・赤色粒・黒色粒	良好	11世紀後半～12世紀

法量 () は復元法推定値、[] は推定値である。

表4 土器観察表(6)

図	船名番号	調査区	出土 地	種別	器種・器形	口径	法量 (cm)		部位	成形技法(外裏/内面/底部)	色調		船土	形状	備考	
							口径	高さ			外裏	内面				
39	110	④-2	遺構外 地	土師器	壺	—	10.0	[4.9]	底部	タテマケ/ヨコハケ	10YR7/4にぶい黄褐色	赤土	10YR7/4にぶい黄褐色	良好	古墳時代中	
39	111	④-2	遺構外 土師器	甗	—	(7.0)	—	[3.8]	底部	ナメマケ/ヨコハケ/底面穿孔	7.5YR2/6黒	赤土・赤色粒・白色	赤土・赤色粒・白色	良好	古墳時代中	
40	112	④-1	SK1	土師質土器	甗	10.2	5.2	2.6	4.4球形	ロクロナデ・全体に滑着/回転糸(回転糸切)	7.5YR2/6黒	赤土・赤色粒・赤色粒・白色粒・黒色粒	赤土・赤色粒・赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	16世紀	
40	113	④-1	SK1	土師質土器	甗	—	(11.2)	—	2.5	口縁部~体部	ロクロナデ・裏付	7.5YR2/4にぶい黄褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	中世
40	114	④-1	SK1	土師質土器	甗	—	(6.0)	[1.0]	底部	ロクロナデ/回転糸(切)	5YR7/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	中世	
40	115	④-1	SK1	土師器	壺	(16.6)	—	[3.4]	口縁部	ナデ調整	5YR6/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	116	④-1	SK7	土師器	壺	—	—	[3.8]	体部	ナメマケ/ナデ調整	10YR6/3にぶい黄褐色	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	古墳時代中	
40	117	④-1	SK9	丘輪部	香印	(8.2)	—	[2.1]	口縁部	輪縁・ナデ調整	7.5Y7/2灰白	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	118	④-1	SK10	土師器	壺	—	—	[4.1]	体部	ミガキ/ナデ調整	5YR4/4褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	119	④-1	SK16	土師質土器	甗	(12.7)	—	[1.3]	口縁部	ロクロナデ	7.5YR7/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	16世紀	
40	120	④-1	SK16	須賀土器	甗	—	—	[5.4]	体部	ロクロナデ・外裏に滑着	N7.0灰白	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	平安時代中	
40	121	④-1	SP2	土器	甗	—	—	[4.6]	体部	ナデ調整・指頭圧着/ナデ調整・窪目	7.5YR7/6黒	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	中世	
40	122	④-1	遺構外 土師器	甗	—	(9.8)	—	[2.0]	口縁部~体部	ロクロナデ	7.5YR5/4にぶい黄褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	15世紀~16世紀	
40	123	④-1	遺構外 土師器	壺	—	—	—	[3.6]	体部	ナメマケ/ヨコハケ	7.5YR7/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	124	④-1	遺構外 土師器	壺	—	—	—	[8.8]	体部	ミガキ/ナデ調整	2.5YR6/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	弥生~古墳時代中	
40	125	④-1	遺構外 弥生土器	壺	—	—	—	[13.7]	体部	ミガキ/ヨコハケ	10YR6/3にぶい黄褐色	赤土・赤色粒・白色粒	赤土・赤色粒・白色粒	良好	弥生時代後期前	
40	126	④-1	遺構外 土師器	甗	甗	—	—	[4.2]	体部~底部	ヨコハケ・ヘラズリ/ナデ調整	5YR5/6明黄褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	127	④-1	遺構外 土師器	甗	甗	—	—	[4.8]	体部	ハケメ/ナデ調整	7.5YR7/3にぶい黄褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
40	128	④-1	遺構外 土師器	甗	甗	—	—	[7.3]	体部	タテマケ/ヨコハケ・指頭圧着	7.5YR7/6黒	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	古墳時代前期	
41	129	④-2	SK2	甗	玉目蓋	—	(4.0)	[1.1]	底部	ロクロナデ・内裏に輪縁	N7.0灰白	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	13世紀~14世紀初	
41	130	④-2	SK7	土師質土器	甗	(10.8)	(6.0)	[3.7]	口縁部~体部	内底周縁部手摺成形	7.5YR7/6黒	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	赤土・赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	13世紀~14世紀	
41	131	④-2	SK8	土師質土器	甗	(9.7)	—	[2.2]	口縁部	ロクロナデ	7.5YR7/4にぶい黄褐色	赤土・赤色粒	赤土・赤色粒	良好	16世紀	

法量()は復元推定値、[]は計測値である。

表4 土器観察表(7)

報告書 番号	調査区	出土 地点	種別	器種・器形	法量 (cm)		部位	成形技法(外底/内底/底面)	色調		胎土	形成	備考
					口径	高さ			外底	内底			
41 132	③-2	SK8	土師質土器	おつらひ	—	(6.0)	1.4	口縁部	口クロナ子/回転糸切	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 にふい	密 金色黄母・黒 良母	16世紀
41 134	③-2	SK9	土師質土器	おつらひ	(9.7)	(5.6)	2.5	口縁部～底部	口クロナ子/回転糸切	5R6/6 横	5R6/6 横	密 赤色粒・白色 良母	16世紀
41 135	③-2	SK9	弥生土器	壺小	—	—	(2.5)	体部	華指捺交文/ヨコナフ	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 横	密 黒石・金色黄 母・白色粒・黒 母・白色粒	弥生時代後期
41 136	③-2	SK9	土器	壺鉢	—	—	(5.6)	体部	ナ子調様/横目	10R5/2 縦黄横	2.5R5/1 黄底	密 赤石・金色黄 母・赤色粒・白色 良母	16世紀
41 137	③-2	SK11	土師質土器	おつらひ	(9.7)	—	(2.4)	口縁部～体部	口クロナ子	5R6/6 横	5R6/6 横	密 赤色粒・白色 良母	中世
41 138	③-2	SK11	土師質土器	おつらひ	—	(7.0)	(1.2)	底面	口クロナ子/回転糸切	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 にふい	密 赤石・金色黄 母・赤色粒	16世紀
41 139	③-2	SK11	土師質土器	おつらひ	(13.8)	—	(2.3)	口縁部～体部	口クロナ子	10R7/3 にふい	10R7/3 にふい	密 金色黄母・白 良母・黒色粒	16世紀
41 140	③-2	SK12	土師器	杯	(9.7)	—	(3.1)	口縁部～体部	ナメ/ハフ/ミガキ 着	7.5R7/8 黄横	7.5R7/8 黄横	中や粗 黒石・金 色黄母・白色粒・ 黒色粒	古墳時代
41 141	③-2	SK12	土師質土器	おつらひ	(7.8)	(4.8)	1.7	口縁部～底面	口クロナ子/回転糸切	10R7/4 にふい	10R7/4 にふい	密 金色黄母・黒 良母	16世紀
41 142	③-2	SK12	土師質土器	おつらひ	(11.6)	—	(2.1)	口縁部～体部	口クロナ子	7.5R6/4 にふい	7.5R6/4 にふい	密 金色黄母・赤 良母	中世
41 143	③-2	SK12	土師質土器	おつらひ	(14.2)	—	(2.3)	口縁部～体部	口クロナ子	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 にふい	密 金色黄母・白 良母	16世紀
41 144	③-2	SK12	土師質土器	おつらひ	(7.4)	—	(2.0)	口縁部～体部	口クロナ子/内面に横付着	10R7/3 にふい	10R7/3 黒横	密 赤色黄母・赤 良母	中世
41 145	③-2	SK12	土師質土器	おつらひ	—	—	(2.2)	口縁部	口クロナ子	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 にふい	密 黒石・金色黄 母・白色粒・黒 母・白色粒	16世紀
41 146	③-2	SK12	土師質土器	香炉小	—	—	(2.2)	口縁部	口クロナ子	7.5R6/4 黄横	7.5R6/4 黄横	密 黒石・金色黄 母・黒色粒	15世紀～16世紀
41 147	③-2	SK14	土師質土器	おつらひ	(11.7)	—	(2.0)	口縁部～体部	口クロナ子	7.5R7/4 にふい	7.5R7/4 にふい	密 赤色粒・白色 良母	16世紀
41 148	③-2	SK14	土師質土器	おつらひ	—	(6.0)	(1.4)	底面	口クロナ子/回転糸切	5R7/8 横	5R7/8 横	密 黒石・金色黄 母・赤色粒・白 良母	15世紀～16世紀
41 149	③-2	SP1	土師質土器	おつらひ	—	(9.0)	(1.4)	底面	口クロナ子/回転糸切/底面から 底面の一帯にかけて横付着、破断 後に斜孔たか	5R7/6 横	5R7/6 横	密 金色黄母・赤 良母・白色粒・黒 母・白色粒	15世紀～16世紀
41 150	③-2	SP7	土師質土器	おつらひ	(11.8)	—	(2.3)	口縁部～体部	口クロナ子	7.5R7/6 横	7.5R7/6 横	密 金色黄母・赤 良母・白色粒	15世紀～16世紀

法量()は復元測定量()は残存寸である。

表4 土器観察表(8)

図	報告書番号	調査区	出土地点	種別	器種・器形	法量(mm)		成形技法(外蓋/内蓋/内蓋部)	色調		胎土	備考
						長さ	幅		口径	底径		
42	151	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	7.2	3.6	1.9	口縁部	7.5YR7/6 黒	赤・黒石・石灰・良好 白色胎土・白色粒・黒色胎土	16世紀
42	152	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(11.6)	—	(2.3)	口縁部~外部	7.5YR7/4 に近い黒	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	16世紀
42	153	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(11.7)	—	(2.7)	口縁部~外部	7.5YR7/4 に近い黒	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	15世紀~16世紀
42	154	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(11.6)	—	(2.3)	口縁部~外部	7.5YR7/6 黒	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	15世紀~16世紀
42	155	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	—	(7.0)	(2.6)	体部~底部	7.5YR6/1 灰白	赤・赤褐色・白・良好 赤・赤褐色・白・良好	15世紀~16世紀
42	156	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(10.0)	—	(2.0)	口縁部~外部	10YR8/3 黄褐色	赤・赤褐色・白・良好 赤・赤褐色・白・良好	16世紀
42	157	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(12.0)	—	(2.6)	口縁部~外部	5YR7/6 黒	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	15世紀~16世紀
42	158	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(9.7)	—	(2.3)	口縁部~外部	2.5YR6/2 灰黄	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	15世紀~16世紀
42	159	③-2	遺構外	土師質土器	丸ツ5寸	(13.7)	—	(1.7)	口縁部~外部	5YR6/6 黒	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	15世紀~16世紀
42	160	③-2	遺構外	土器	内耳土器	(22.0)	—	(3.5)	口縁部	7.5YR6/2 灰黄	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	16世紀
42	161	③-2	遺構外	土器	土鍋(内耳土器部分)	(19.0)	—	(4.8)	口縁部	2.5YR5/1 黄灰	赤・赤褐色・赤・良好 赤・赤褐色・赤・良好	16世紀

表5 金属製品観察表

図	報告書番号	調査区	出土地点	種別	法量(mm)		材質	注記内容	備考
					長さ	厚さ			
36	40	③-1	遺構外	鉄貨	25.1	25.5	銅	③-1区一括	磨祐遺蹟(北宋、1056年)
36	47	③-2	遺構外	折れたたみナイフ	82.8	21	鉄	③-2区調査区一括	近代
36	48	③-2	遺構外	板状鉄片	48.7	27.2	鉄	③-3区調査区一括	
38	79	④-2	SK3	鉄貨	24.5	24.5	銅	④-2区 SK3No.3	元善清遺蹟(北宋、1078年)
38	80	④-2	SK3	鉄貨	24.1	24.1	銅	④-2区 SK3No.4	元善清遺蹟(北宋、1078年)
38	81	④-2	SK3	鉄貨	25.1	25.1	銅	④-2区 SK3No.4	元善清遺蹟(北宋、1078年)
38	82	④-2	SK3	鉄貨	24.1	24.2	銅	④-2区 SK3No.4	明元遺蹟(南宋、1039年)
38	84	④-2	SK5	鉄貨	24.1	24.1	銅	④-2区 SK5No.1	明元遺蹟(北宋、1039年)
41	133	⑤-2	SK8	鉄貨	24.4	24.3	銅	⑤-2区 SK8No.3	至和元(北宋、1054年)

第5章 自然科学分析

第1節 古人骨鑑定

榎田遺跡出土人骨

大妻女子大学博物館 榎崎修一郎

はじめに

榎田遺跡は、山梨県甲府市千塚5丁目に所在する。昭和測量による発掘調査が、平成28年6月17日～11月30日まで行われた。本遺跡の④-1区SK2および④-2区SK3より、人骨が出土したので、以下に報告する。なお、時期は、いずれも中世に比定されている。

1. ④-1区SK2出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸118cm・短軸92cm・深さ22cmの規模の不整円形土坑から出土している。出土状況からは、頭位は北で屈葬により埋葬されたと推定される。

(2) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(3) 被葬者の性別

被葬者の頭蓋骨は比較的小さく、遊離歯も比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

(4) 被葬者の死亡年齢

遊離歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約20歳代であると推定される。

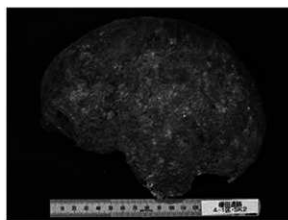


写真1. ④-1区SK2 頭蓋骨 (左側)

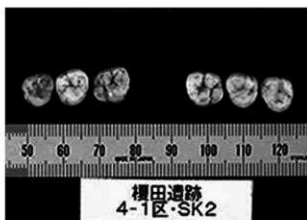


写真2. ④-1区SK2 出土遊離歯 (左右上顎大臼歯)

2. ④-2区SK3出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸 120cm・短軸 92cm・深さ 21cm の規模の方形土坑から出土している。出土状況からは、頭位は北で屈葬により埋葬されたと推定される。

(2) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(3) 被葬者の性別

被葬者の頭蓋骨は比較的小さく、遊離歯も比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

(4) 被葬者の死亡年齢

遊離歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみのマルティンの1度である。被葬者の死亡年齢は、約 20 歳代であると推定される。

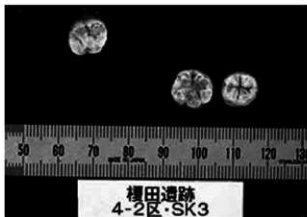


写真3. ④-2区SK3出土遊離歯（右上顎M1・下顎左M1・M2）

第2節 獣骨鑑定

榎田遺跡出土獣骨

大妻女子大学博物館 榎崎修一郎

はじめに

榎田遺跡は、山梨県笛吹市千塚5丁目に所在する。昭和測量による発掘調査が、平成28年6月17日～11月30日まで行われた。本遺跡の⑤-1区SK1および⑤-2区SK1より、獣骨が出土したので、以下に報告する。なお、時期は、不明である。

1. ⑤-1区SK1出土獣骨

獣骨は、長軸178cm・短軸164cm・深さ92cmの規模の不整形土坑から出土している。本獣骨は、馬の臼歯であると推定される。しかしながら、残存状態が非常に悪いため、歯種の同定には至らなかった。土坑の規模が大ききことをみると、全身が埋葬されていたのかもしれない。馬の場合、歯や一部の顎骨しか残存しない場合が多い。

2. ⑤-2区SK1出土獣骨

人骨は、長軸120cm・短軸53cm・深さ71cmの規模の方形土坑から出土している。本獣骨は、馬の下顎臼歯であると推定される。しかしながら、残存状態が非常に悪いため、歯種の同定には至らなかった。土坑の規模は比較的小さいが、身体を折り曲げて埋葬されていたのかもしれない。馬の場合、歯や一部の顎骨しか残存しない場合が多い。

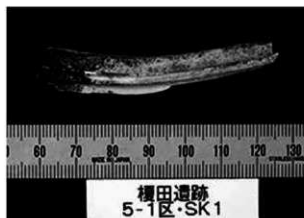


写真4. ⑤-1区SK1出土馬歯



写真5. ⑤-2区SK1出土馬歯

第6章 まとめ

今回の調査で土坑 73 基、ピット 70 基、溝状遺構 39 基を確認した。出土遺物は細片が多いが主に中世の遺物を中心とし、古墳時代前期以前の遺物も多数出土している。

〈遺物について〉

古墳時代の遺物で特筆すべきものは②-1区遺構外より出土した台付甕 (No.19) がある。口径 44.9cm、残存高 34.0cm を測り、胴部は球形で口頸部は肩部から「く」の字状に屈曲して開き、脚部は欠損している。外面はハケ目、内面はナデ調整を施し、口縁部はナデ調整後内外面にハケ目を施している。台付甕としてはかなりの大形で特異な印象を受けるが、近似した形態の大形台付甕が静岡県富士市新田遺跡 (富士市教育委員会 1983) で確認でき、駿河東部地域由来の台付甕である可能性が高い。この台付甕の周辺からは高坏や甕 (No.15 ~ 17) が一括して出土しており、何らかの共献・祭祀の状況が想起されるが、調査区の西側壁面に食い込んだ状態で検出され、さらに道路に隣接していたために調査区の拡張はできず、詳細な出土状況を確認する事が出来なかったため遺構外よりの出土としたが、榎田遺跡の過去の調査では古墳時代前期の方形周溝墓が検出されており、方形周溝墓に関わる遺物である可能性も考えられる。高坏の形態から 4 世紀前半のものと考えられる。

中世の遺物としてはかわらが主体を占めており、細片も多いが、底部に指頭成形の痕跡が認められるものと回転糸切りを施すものが確認できる。底部に指頭成形の痕跡が確認できるものは No.98・99・130 のかわらけで、内外面は丁寧に横ナデが施されている。これらは内型に粘土を貼付けて成形した「型おこし」による底部手づくね成形のかわらけであると考えられる (鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会 1984・田中一廣 2001)。山梨県内では南アルプス市 (旧甲西町) 大師東丹保遺跡で出土しており、13 世紀中葉から 14 世紀初頭の年代が与えられている (山梨県教育委員会 1997)。一方、回転糸切りを施すものは、本遺跡では主体的に出土しており、今回検出された 2 基の土坑墓から完形のかわらけが計 5 点出土している (No.50 ~ 52・77・78)。ロクロ成形で、底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がり、口縁部がやや突る。器壁は厚く、焼成は良好である。甲府市武田氏館跡や甲州市勝沼氏館跡で見られるような 16 世紀前半から中葉頃のものと考えられる。

〈遺構について〉

今回の調査で確認された特徴的な遺構は、中世の土坑墓 2 基と複数の大形土坑である。

大形土坑は直径 1.5 ~ 2.0 m、検出面からの深さが 0.5 ~ 1.2 m を測り円形ないし楕円形を呈す。主に④・⑤区で集中して検出されており、土坑同士の重複関係も見られる。遺物は混入と思われる古墳時代前期の土器片以外はほとんど出土していない。山梨県内における類例としては北杜市白州町所帯遺跡、屋敷平遺跡、板橋遺跡で確認されている。いずれも直径 1.0 ~ 1.6 m、深さ 0.5 ~ 1.3 m を測り、埋土は急速に埋め戻された様相がうかがえ、遺物がほとんど出土していない点が共通している。中世の円形墓あるいは貯蔵穴と考えられているが詳細は不明である。

今回検出された大形土坑の切り合い関係を見ると 16 世紀と考えられる 2 基の土坑墓 (④-1区 SK2・④-2区 SK3) の下層から④-1区 SK12・SK16・SK18・④-2区 SK13 が検出されており、古墳包含層である黒色砂質シルト層を掘り込んでいるため、16 世紀の土坑墓より古く、古墳時代前期以降の所産と考えられる。また④-2区 SK7 からは底部手づくね成形のかわらけが 1 点出土している。「14 世紀から 15 世紀にかけては、(中略) 手づくね技法の導入がみられること、ロクロ成形が一般化していくこと」「甲斐における 15 世紀末から 16

世紀段階は、全体としてはロクロ土師器皿が生産流通しており、手づくね土師器皿が僅かながら確認される」（降矢哲男他 2001）状況を鑑みれば、ロクロ成形土器が一般化する以前の 13 世紀中葉から 14 世紀初頭のものと考えられる。

中世の土坑墓（④-1 区 SK2・④-2 区 SK3）からはそれぞれ人骨、かわらけ、中国銭が出土し、頭を北に向けて埋葬された状況が確認できる。いずれも出土したかわらけの年代から 16 世紀の土坑墓であると考えられる。榎田遺跡では平成 25・27 年度の調査においても 16 世紀代の土坑墓が複数検出されており、当該期においては墓域が広がっていたことが示唆される。今回の調査地点から南西約 200 m の地点には跡部遺跡が存在する。跡部遺跡の範囲には元亀二年（1571）に跡部伊賀守信秋により再建された殺蔵寺（現攀桂寺）が位置しており、墓域が属する宗教施設の候補の 1 つとして考えられる。

〈おわりに〉

平成 25 年度から 28 年度にかけての調査地は、金峰山信仰に関わる参道の「御嶽道」の 1 つ（山本 2000）と指摘されている地に近接しており、平成 26 年度の調査では近世段階と思われる道路状遺構が検出され関連が想定されている。周辺地域は金峰山信仰に関わる重要な地域であり、また平成 25 年度の調査以降、中世期の土坑墓も複数検出されている。さらに平成 4 年度の調査では古墳時代前期の方形周溝墓が確認されており、古墳時代から続く葬送・信仰の地としての様相が少しずつ明らかになってきている。今回の調査においてもその様相の一端が明らかになったことが大きな成果である。

〈参考文献〉

鎌倉聖舎改築にかかる遺跡調査会 1984『蔵敷教遺跡』

甲州市教育委員会 2009『史跡勝沼氏館跡—外郭域発掘調査報告書（中世編）—』甲州市文化財調査報告書第 3 集

甲府市教育委員会 2014『甲府市内遺跡 X—平成 21・22 年度試掘確認調査報告書—』甲府市文化財調査報告 68

甲府市教育委員会他 2016『榎田遺跡—都市計画道路高知町昇仙峡線街路事業に伴う甲府市千塚 4 丁目 3048 9 他及び千塚 5 丁目 3046-1 地点の発掘調査—』甲府市文化財調査報告 84

甲府市教育委員会他 2016『榎田遺跡（甲府市千塚 4 丁目 3256-1 他地点）—都市計画道路高知町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査報告書—』甲府市文化財調査報告 91

小林健二 2015『甲斐の古墳時代と土器—編年と移動を考える—』『山梨県考古学協会誌』第 23 号 山梨県考古学協会

佐々木満 1998『手づくね成形による土師器皿の受容—甲斐国を例にして—』『山梨県考古学協会誌』第 10 号 山梨県考古学協会

田中一廣 2001『京・岩倉木野の土師器—『いわゆる幡枝土器』の分類—』『中世土器研究論集—中世土器研究会 20 周年記念論集—』中世土器研究会

白州町教育委員会 1989『所帯 I 遺跡・所帯 II 遺跡』

北柱市教育委員会 2006『屋敷平遺跡 第 2 次調査』北柱市埋蔵文化財調査報告第 16 集

北柱市教育委員会 2011『板橋遺跡』北柱市埋蔵文化財調査報告第 38 集

富士市教育委員会 1983『三新田遺跡発掘調査報告書』

降矢哲男・佐々木満・山下孝司 2001『山梨県内における中世の土器様相について—土師器皿を中心にして—』『中世土器研究論集—中世土器研究会 20 周年記念論集—』中世土器研究会

山梨県教育委員会他 1997『大師東丹保遺跡 II・III 区』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 132 集

山本義孝 2000『深山田遺跡と中世修験道』『深山田遺跡』甲野村文化財調査報告 12 付録 甲野村教育委員会

写真図版



1.①区モザイク写真



2.②区モザイク写真



3.③区モザイク写真



4.④区モザイク写真



5.⑤区モザイク写真



6.①-1区SD2完掘状況(北から)



7.①-1区SD1完掘状況(北から)



8.①-1区SD4・3完掘状況(北から)



9.①-1区SD5完掘状況(北から)



10.①-1区SK1完掘状況(南から)

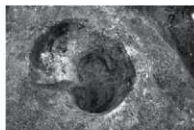


11.①-1区SK2完掘状況(北から)

図版 2



12.①-1 区 SK3 完掘状況 (東から)



13.①-1 区 SK4 完掘状況 (南から)



14.①-1 区 SK5 完掘状況 (南から)



15.①-1 区 SK6 完掘状況 (西から)



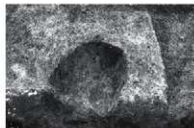
16.①-1 区 SK7 完掘状況 (西から)



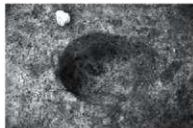
17.①-1 区 SP1 完掘状況 (西から)



18.①-1 区 SP2 完掘状況 (南から)



19.①-1 区 SP3 完掘状況 (西から)



20.①-1 区 SP4 完掘状況 (南から)



21.①-1 区 SP5 完掘状況 (西から)



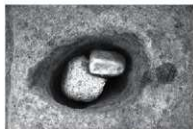
22.①-2 区完掘状況 (東から)



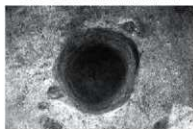
23.①-3 区 SD1 完掘状況 (北から)



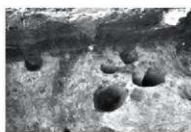
24.①-3 区 SD1 セクション (西から)



25.①-3 区 SP1 完掘状況 (東から)



26.①-3 区 SP3 完掘状況 (東から)



27.①-3 区 SP4～8 完掘状況 (西から)



28.②-1 区 SD1～4 完掘状況 (南から)



29.②-1 区 SD5 完掘状況 (東から)



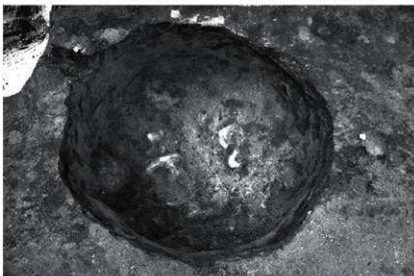
30.②-1 区 SD6 完掘状況 (南から)



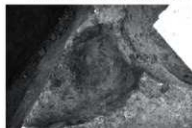
31.②-1 区 SD8 完掘状況 (南から)



32.②-1 区 SK1 完掘状況 (東から)



33.②-1 区 SK2 完掘状況 (東から)



34.②-1 区 SK3 完掘状況 (東から)



35.②-1 区 SK4 完掘状況 (南から)



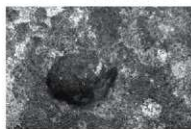
36.②-1 区 SP1 完掘状況 (南から)



37.②-1 区 SP2 完掘状況 (南から)



38.②-1 区 SP3 完掘状況 (南から)



39.②-1 区 SP5 完掘状況 (南から)



40.②-1 区 SP6 完掘状況 (南から)

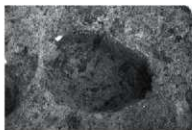


41.②-1 区 SP7・8 完掘状況 (西から)

図版 4



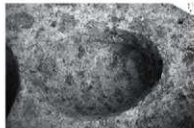
42.②-1 区 SP10・9 完掘状況 (南から)



43.②-1 区 SP11 完掘状況 (南から)



44.②-1 区 SP12 完掘状況 (南から)



45.②-1 区 SP13 完掘状況 (南から)



46.②-1 区 SP14 完掘状況 (南から)



47.②-1 区 SP15 完掘状況 (南から)



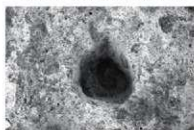
48.②-1 区 SP16 完掘状況 (南から)



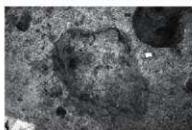
49.②-1 区 SP17 完掘状況 (南から)



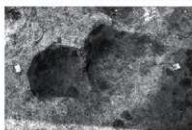
50.②-1 区 SP18・SD8 完掘状況 (南から)



51.②-1 区 SP19 完掘状況 (南から)



52.②-1 区 SP20 完掘状況 (南から)



53.②-1 区 SP21・22 完掘状況 (東から)



54.②-1 区 SP23 完掘状況 (南から)



56.②-2 区 SD2 完掘状況 (西から)



55.②-1 区遺物出土状況 No.19(東から)



57.②-2 区 SD3 完掘状況 (東から)



58.②-2 区 SD7・6・5 完掘状況 (東から)



59.②-3 区 SD6~1 完掘状況 (西から)



60.②-3 区 SD7 完掘状況 (北から)



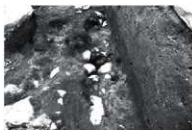
61.③-1 区北側完掘状況 (南から)



62.③-1 区南側完掘状況 (北から)



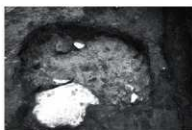
63.③-2 区 SD1 完掘状況 (南から)



64.③-2 区 SD3・4 完掘状況 (南から)



65.③-2 区 SK1 完掘状況 (南から)



66.③-2 区 SK2 完掘状況 (南から)



67.③-2 区 SP1 完掘状況 (南から)



68.④-1 区 SK1 完掘状況 (南から)



69.④-1 区 SK2 出土状況 (西から)



70.④-1 区 SK2 頭骨出土状況 (西から)

図版 6



71.④-1区 SK3 完掘状況 (東から)



72.④-1区 SK4 完掘状況 (南から)



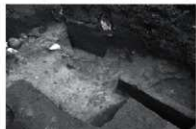
73.④-1区 SK5 完掘状況 (南から)



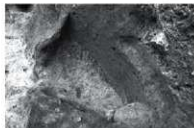
74.④-1区 SK5 セクション (西から)



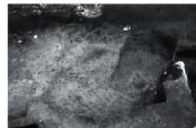
75.④-1区 SK6 完掘状況 (東から)



76.④-1区 SK7 完掘状況 (南から)



77.④-1区 SK8 完掘状況 (北から)



78.④-1区 SK9 完掘状況 (西から)



79.④-1区 SK12 完掘状況 (南から)



80.④-1区 SK16 完掘状況 (南から)



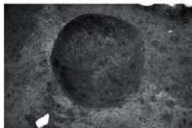
82.④-1区 SP1 完掘状況 (南から)



81.④-1区 SK18 完掘状況 (南から)



83.④-1 区 SD1 完掘状況 (南から)



85.④-2 区 SK1 完掘状況 (南から)



86.④-2 区 SK2 完掘状況 (東から)



88.④-2 区 SK4 完掘状況 (南から)



84.④-1 区調査区東壁 (西から)



87.④-2 区 SK3 人骨出土状況 (北から)



89.④-2 区 SK5 完掘状況 (西から)



92.④-2 区 SK8 完掘状況 (西から)



90.④-2 区 SK6 完掘状況 (西から)



91.④-2 区 SK8 セクション (南から)



93.④-2 区 SK9 完掘状況 (東から)

図版 8



94.④-2区 SK10 完掘状況 (西から)



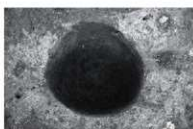
95.④-2区 SK11 完掘状況 (西から)



97.④-2区 SK13 完掘状況 (東から)



100.④-2区 SP3 完掘状況 (南から)



103.④-2区 SP7 完掘状況 (南から)



106.④-2区 SP10 完掘状況 (西から)



96.④-2区 SK13 セクション (南から)



98.④-2区 SP1 完掘状況 (南から)



99.④-2区 SP2 完掘状況 (南から)



101.④-2区 SP5 完掘状況 (南から)



102.④-2区 SP6 完掘状況 (南から)



104.④-2区 SP8 完掘状況 (南から)



105.④-2区 SP9 完掘状況 (北から)



107.④-2区 SP12 完掘状況 (西から)



108.④-2区 SX1 完掘状況 (西から)



109.㊦-1 区 SK1 セクション (南から)



111.㊦-1 区 SK2 完掘状況 (南から)



110.㊦-1 区 SK1 完掘状況 (南から)



112.㊦-1 区 SK4 完掘状況 (西から)



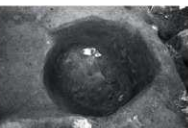
113.㊦-1 区 SK5・6 完掘状況 (西から)



114.㊦-1 区 SK8 完掘状況 (西から)



115.㊦-1 区 SK9 完掘状況 (南から)



116.㊦-1 区 SK10 完掘状況 (南から)



117.㊦-1 区 SK12 完掘状況 (南から)



118.㊦-1 区 SK13 完掘状況 (東から)



119.㊦-1 区 SK14 完掘状況 (北から)



120.㊦-1 区 SK15 完掘状況 (南から)



121.㊦-1 区 SK16 完掘状況 (南から)



122.㊦-1 区 SP1 完掘状況 (南から)



123.㊦-1 区 SP2 完掘状況 (南から)



124.③-1 区 SP3 完掘状況 (南から)



126.③-2 区 SK1 完掘状況 (東から)



125.③-1 区調査区東壁 (西から)



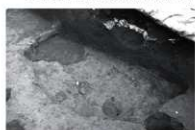
127.③-2 区 SK2 完掘状況 (南から)



128.③-2 区 SK3 完掘状況 (東から)



129.③-2 区 SK4 完掘状況 (東から)



130.③-2 区 SK5 完掘状況 (西から)



131.③-2 区 SK6 完掘状況 (東から)



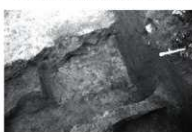
132.③-2 区 SK7 セクション (南から)



133.③-2 区 SK7 完掘状況 (南から)



134.③-2 区 SK8 完掘状況 (南から)



135.③-2 区 SK9 完掘状況 (南から)



136.⑤-2区 SK10 完掘状況 (南から)



137.⑤-2区 SK11 完掘状況 (南から)



138.⑤-2区 SK12 完掘状況 (南から)



139.⑤-2区 SK13 完掘状況 (南から)



140.⑤-2区 SK14 完掘状況 (西から)



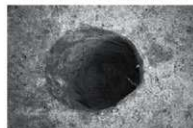
141.⑤-2区 SK15 完掘状況 (西から)



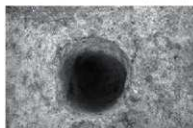
142.⑤-2区 SK16 完掘状況 (南から)



143.⑤-2区 SP1 完掘状況 (北から)



144.⑤-2区 SP2 完掘状況 (西から)



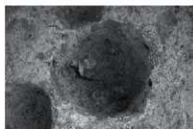
145.⑤-2区 SP3 完掘状況 (南から)



146.⑤-2区 SP4 完掘状況 (東から)



147.⑤-2区 SP5 完掘状況 (東から)



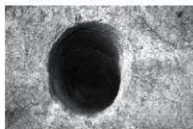
148.⑤-2区 SP6 完掘状況 (北から)



149.⑤-2区 SP7 完掘状況 (東から)



150.⑤-2区 SP8 完掘状況 (南から)



151.⑤-2区 SP9 完掘状況 (東から)

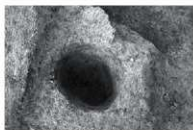


152.⑤-2区 SP10 完掘状況 (西から)



153.⑤-2区 SP11 完掘状況 (東から)

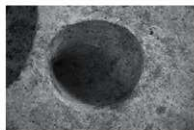
図版 12



154.⑤-2区 SP12 完掘状況 (南から)



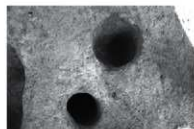
155.⑤-2区 SP13 完掘状況 (南から)



156.⑤-2区 SP14 完掘状況 (南から)



157.⑤-2区 SP15 完掘状況 (南から)



158.⑤-2区 SP16・17 完掘状況 (西から)



159.①区調査前状況 (南から)



160.②区調査前状況 (南から)



161.③区調査前状況 (南から)



162.④・⑤区調査前状況 (北から)



163.①区表土掘削状況



164.⑤区埋戻し作業



165. 基準点測量



166. 調査風景



167. 調査風景



168. ボール撮影による写真測量



169. 遺物洗浄作業



170. 遺物復元作業



171. 遺物実測作業

①-1区

SD1



1

SD3



2

3

SD4



4

5

SK3



6

7

SK6



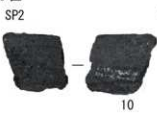
遺構外



8

9

①-3区



10

11

SP2

遺構外



②-1区

SD7



12

13

SK2



14

遺構外



15



16



17

18

图版 14

②-1 区
遺構外



19

②-2 区

SD2



20

SD4



21

SD5



22

SD7



23

SD9



24

SK1



25



26

遺構外



27



28



29

②-3 区

SD3



30

SD4



31

SD7



32



33



34



35

SP1

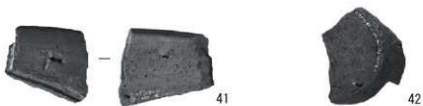


36

③-1 区
遺構外



③-2 区
SK1

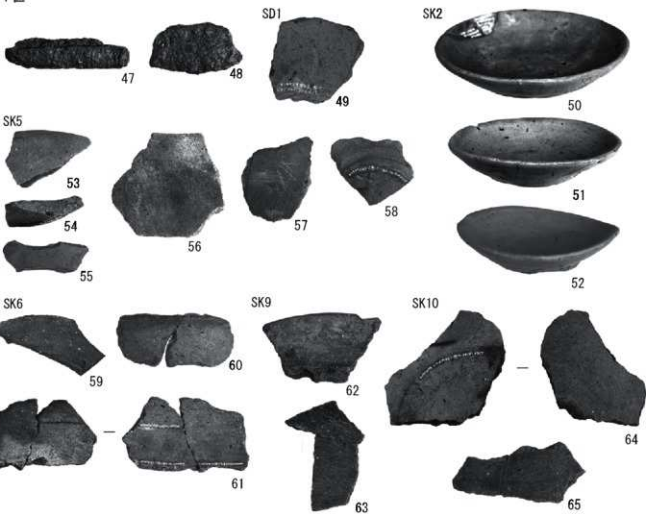


SK2

遺構外



④-1 区



④-1 区

SK12



66



67

SK18



68



69

SP2



70

遺構外



71



72



73



74



75

④-2 区

SK3



76



77



78



79



80



81



82



SK5



83



84



SK6



85

SK7



86

SK8



87



88

SK10



89



SK13



90



91



SP6



92



SX1



93



94



95

遺構外



96



97



98



99



100

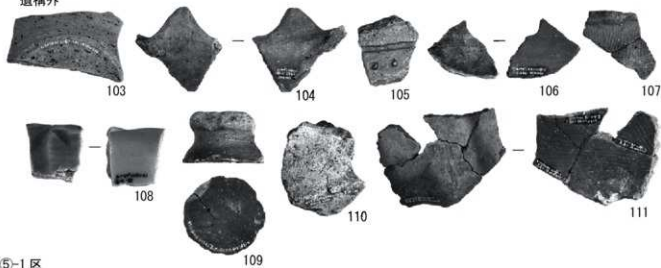


101



102

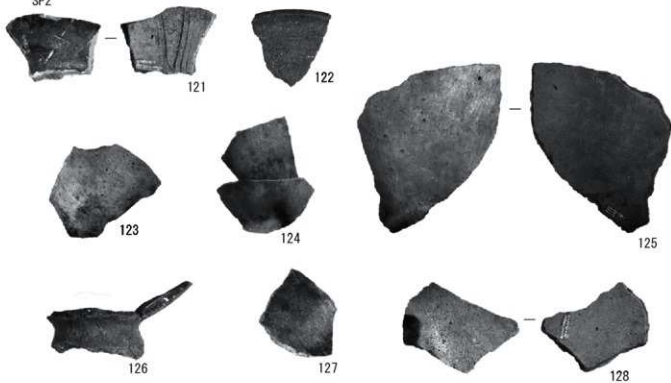
④-2 区
遺構外



⑤-1 区
SK1



SP2



⑤-2 区

SK2



129

SK7



130

SK8



131

SK9



132



133



134



135



136

SK11



137



138



139

SK12



140



141



142



143



144



145



SK14



146



147



148

遺構外



149



150



151



152



153



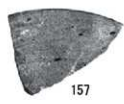
154



155



156



157



158



159



160



161

報告書抄録

フリガナ	エノキダイセキ (コウフシチツカ 5 チョウメ 3183-2 ホカチテン)							
書名	榎田遺跡 (甲府市千塚 5 丁目 3183-2 他地点)							
副書名	都市計画道路高畑町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	甲府市文化財調査報告							
シリーズ番号	100							
編著者名	平塚洋一 (甲府市教育委員会)・萩野谷主税 (昭和測量株式会社)							
編集機関	昭和測量株式会社							
所在地	〒 400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 ☎ 055-235-4448							
発行年月日	西暦 2018 (平成 30) 年 1 月 30 日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
エノキダイセキ 榎田遺跡 コウフシチツカ 5 丁目 3183-2 他地点	ヤマノゲン 山梨県 コウフシチツカ 5 丁目 3183-2 他地点	19201	17	35° 41' 09"	138° 32' 13"	20160617 ~ 20161130	458	道路拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
榎田遺跡 (甲府市千塚 5 丁目 3183-2 他地点)	散布地	縄文・弥生・ 古墳・中世・ 近世	土坑・土坑墓・ピット・溝状遺構	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・かわらけ・青磁・磁器・陶器・ 銭貨			土塚墓 2 基が検出され人骨、かわらけ、中国銭が出土した。16 世紀代に属すると推測される。また中世に属すると推測される大形の土坑が集中して検出されている。	

甲府市文化財調査報告 100

榎田遺跡（甲府市千塚 5 丁目 3183-2 他地点）

— 都市計画道路高畑町昇仙峡線街路事業に伴う発掘調査報告書 —

発行日 平成 30 年 1 月 29 日

編集 昭和測量株式会社
〒 400-0032 山梨県甲府市中央三丁目 11-27 ℡ 055-235-4448

発行 山梨県中北建設事務所
〒 400-0065 山梨県甲府市貢川二丁目 1-8 ℡ 055-224-1660

甲府市教育委員会
〒 400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目 18-1 ℡ 055-223-7324

昭和測量株式会社
〒 400-0032 山梨県甲府市中央三丁目 11-27 ℡ 055-235-4448

印刷・製本 株式会社 内田印刷所
〒 400-0032 山梨県甲府市中央二丁目 10-18 ℡ 055-233-0188
